

BSS ご加入ユーザーさまへ



2023 年度
PC-MAPPING
機能追加・更新情報のご報告

第 4 版 2024 年 3 月 26 日 現在

2026 年 3 月 03 日 追記

株式会社マブコン

内容

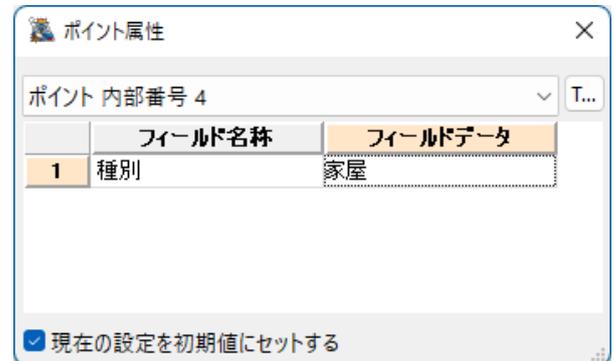
ポイント追加時の属性設定ダイアログボックス	4
コマンド文に関して	4
[3D ビュー II] 関連追加	4
[3D ビュー]-[ブックマーク]	5
背景イメージの文字認識	5
インストール手順	5
Pcm.ini 設定	6
ポイントからグラデーションカラー/ステップカラー	7
[アーク分割(ダッシュスタイル)]機能追加	7
楕円体球面上での面積 オプション	8
計算フィールド	8
[固有属性転記]ポリゴン転記時	8
CZML 形式ファイルへのエクスポート	8
GTFS ファイル読み込み	8
[カスタマイズ保留]コマンドオプション追加	9
Proc 系コマンド追加	9
CloseAllOtherTab コマンド追加	9
地心座標系表示	10
パノラマビュー機能追加	10
選択されているアークにのみ交点ノードを生成	10
テンプレート再構成	11
インポート時のテンプレートマッチング	11
ポリゴン3D ビュー機能拡充	12
360 度 Web 閲覧	12
パノラマビュー(360 度静止画像ビューアー)機能拡充	13
3D コントロール	13
自動判定	13
BigTiff 保存	13
同時読み込みプロジェクト設定	13
3D ビュー II での操作・機能更新	14
間引き処理機能	14
「点群」テクスチャ描画機能	14
3D ビュー II 上でのブックマーク利用	14
Proc DispMode Layer 追加	14
VideoSeeker(360°動画表示時)の機能拡充	15
機能追加	15
(360°モード)視野角マーカを地図上に表示する	15
グリッド線	15
プレゼンテーションビューアーパック(PVP)の構成変更	16
属性検索の内部変更	16
KML ファイルへのエクスポート	16
Web メルカトル タイル画像エクスポート	17
データベース関連コマンド追加(メニューにないコマンド)	17
座標変更関数追加(計算フィールド)	17
OSM(OpenStreetMap) XML ファイルインポート	17
[WaveFront OBJ 形式ファイル]出力対応	17
[3D 都市モデル PLATEAU(プラトー)]インポート	18
[文字列引き出し先ポイントの生成]機能追加	18
OSM(OpenStreetMap)XML インポート	19

VideoSeeker(360 度動画)表示強化.....	19
実数型のフィールド小数桁数	19
「MDITILE」コマンド追加	20
プロジェクトエキスパートで、基盤地図データ(標高)追加	21
極心平射(ステレオ)図法(南極・北極)	21
属性検索方法	21
「全データ検索」機能アップ	21
[メッシュポリゴン生成]にオプション追加	22
ビデオファイルから GPS 情報抽出	22
領域連動プロジェクトでのカーソルアイコン	22
[インポート]-[LAS]-[広域ベクター変換].....	23
[3D]-[表示]-[レイヤー点群(ポイント)標高カラー設定]	23
[3D ビュー]-[表示]-[2D ビュー連動]	24
[3D]-[表示]-[レイヤー点群(ポイント)標高カラー設定]	24
「AttrSrch」に新しいコマンドオプションを追加	25
図上計測でのラバーバンド保持	25
[属性データベース設定]-[キーリスト]キーの追加	25
集水域機能の追加	26
集水域メニューの移動	26
集水域領域分割メッシュの追加	26
集水域領域分割ポリゴンの追加	26
整飾プロジェクトでの要素位置指定	27
インポート設定の追加	27
シェープファイル	27
DXF ファイル	27
MP4 から GPS ログファイル作成	28
断面図ウィンドウの高さ設定	28
OnKeyUp イベント	29
プロジェクトエキスパート	29
データベース設定	29
Z 値の付与	29
付与の選択肢追加	29
「アークに補間点を追加して Z 値を付与する」オプションの追加	29
PVP 起動バグ修正	30
「アークセグメントを補間する」オプション	30
アークゆがみ抑制のしきい値の指定	30
[背景イメージ座標付き保存]へオプション追加	31
[カーネル密度推定]ダイアログ更新	31
データベースリンクの絞込み表示の抑制	31
[360 度静止画像閲覧]オプション追加	32
マーカーの表示	32
グリッド線	32
SIMA のエクスポートオプション追加	33
「住居表示住所」データ]インポートオプション追加	33
[360 度静止画像閲覧]画質調整オプション追加	33
[メッシュポリゴン生成]にオプション追加	34
[背景ピクチャー]パネル -【再初期化】ボタン	34
[画素位置にポイントデータを生成]追加	34
データベースのパス設定	35
行政コード処理	35
「ポリゴン存在範囲の矩形ポリゴン生成」オプション追加	35
テクスチャー画像を 3D に貼り付けて表示	36
標高メッシュの 3D ビューでの表示	36
TIN の 3D ビューでの表示	36

TIN ポイントを点群データとして点表示	37
PLATEAU(プラトー)オプション追加	37
[地理院地図]-[表示設定]ダイアログ オプション追加	37
TIN から直接的に段彩陰影図を表示	38
プレゼンテーションビューアパック(PVP)更新	38
[アーク平滑化]補間点オプション追加	39
描画パラメーターのグレースケール化	39
凡例画像として PNG ファイルに保存	40
[システム]-[LAS]-「画像生成」に Intensity 属性の参照を追加	40
任意のサイトの PNG 標高タイルを取得するコマンドを追加	40
[システム]-[LAS]-[標高メッシュ生成(TIN)]の追加	41
[GPS ログ図形の合わせこみ]機能追加	41
[選択]オプション追加	41
GeoPackage ファイル(ベクターデータ)取り込み機能追加	42
[地理院地図]-[応用的]-[広域イメージ登録]オプション追加	42
[地理院地図]画像登録オプション追加	42
[フィールド結合]新機能追加	43
[フィールドの照合・転記]新機能追加	43

ポイント追加時の属性設定ダイアログボックス

ポイント追加時の[属性設定]ダイアログボックスに「現在の設定を初期値にセットする」チェックボックスを追加しました。入力された値(入力されなくてもその時点でセットされている値)が、次のポイント生成時の初期値となります。



コマンド文に関して

コマンド文に関して、通常は半角空白、全角空白、半角カンマをセパレーターとして用いてきましたが、△(全角三角上向き白抜き)を追加しました。△をセパレーターとして利用することを、pcm.ini で
`[pcmcmd]`
`delmitri=0`
 で無効にすることも可能です。設定後、PC-MAPPING を再起動する必要があります。

[3D ビュー II] 関連追加

[ホーム]-[3D ビュー]-[3D ビュー II]で、
 点群等とは別に地物のみに対しオフセットをかけます。
 [3D]-[地物 Z 値オフセット]

[増加]

...地物の Z 値を一時的に増加させ、現在より高くなるように調整

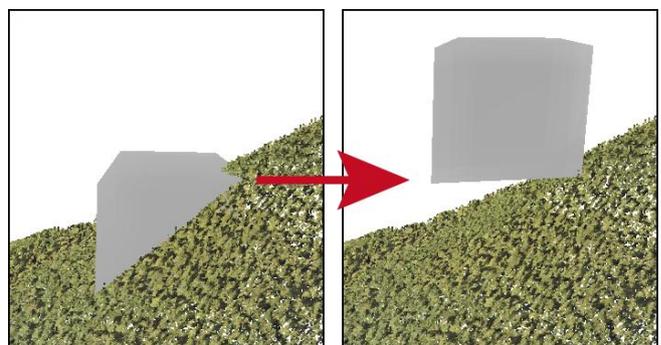
[減少]

...地物の Z 値を一時的に減少させ、現在より低くなるように調整

[詳細設定]

...オフセットの値の直接指定や、[増加][減少]での増減量を予めセット

通常の3D ビューでも ini ファイルに、
`[Pcm3DView]`
`PAINT3DGL=1`
 と書くことで実行可能です。



[3D ビュー]-[ブックマーク]

[3D ビュー]-[ブックマーク]パネルを追加しました。
2D ベクター時と同様に、[ブックマークの追加][ブックマークの整理]と登録されたブックマークへのジャンプメニューを追加しました。
初期値にセットされたブックマークがあれば、3D ビュー起動時にの初期表示に使用します。

背景イメージの文字認識

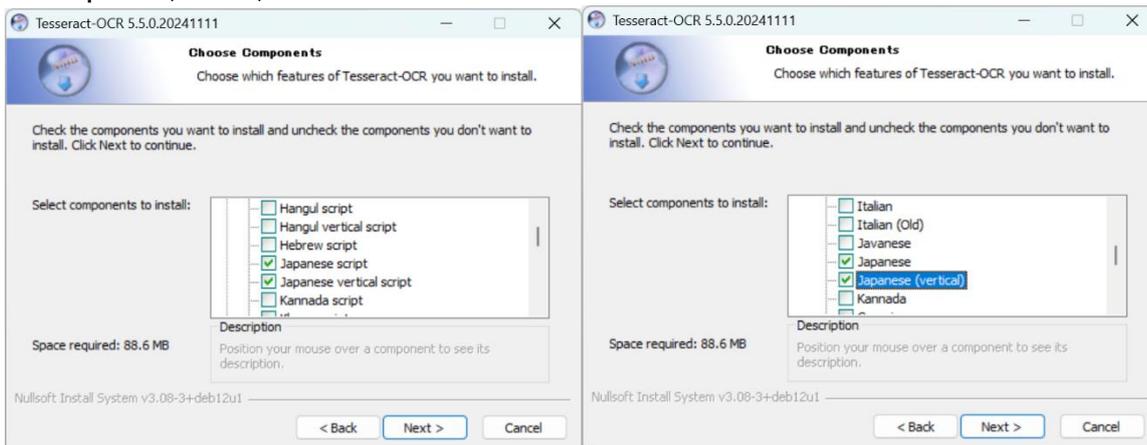
[編集]-[編集他]-[背景イメージ]-[背景イメージの文字認識]、
[イメージ]-[変換]-[特殊]-[文字認識(OCR)]に関し、
OCR エンジンとして「Microsoft Office Document Imaging(MODI)」（現在提供なし）から「[Tesseract-OCR](#)」を使うようにしました。

tesseract-ocr-w64-setup-5.3.1.20230401.exe (64 bit) をインストールし、
追加の言語で、「japanese」「japanese(vertical)」をチェックしておく必要があります。

インストール手順

tesseract-ocr-w64-setup-5.3.1.20230401.exe (64 bit) をインストールします。
インストールするコンポーネントを選択する画面 (Select components to Install) で日本語を OCR させるため、下記の項目にチェックが必要です。

- Additional script data(download)
 - Japanese script
 - Japanese vertical script
- Additional language data(download)
 - Japanese
 - Japanese(vertical)



PCM.INI 設定

利用のために Pcm.ini での設定を行います。

```
[Tesseract]
```

```
//インストールされたパスの指定
```

```
Path="C:¥¥Program Files¥¥Tesseract-OCR¥¥Tesseract.exe"
```

```
//言語指定 +で区切ることで複数の言語名を指定できる 例)jpn+eng
```

```
Lang=jpn+jpn_vert
```

```
//ページセグメンテーションの指定
```

```
Params=-psm 12
```

★pcm.ini での設定により、文字変換時のチューニングを行うことができます(例示はデフォルト値)
指定可能なオプションのリスト (Orientation and script detection: OSD)

- 1 自動ページセグメンテーション(OSD ありで OCR).
- 3 完全自動ページセグメンテーション(OSD なし) (Default)
- 4 単一カラムの様々なサイズのテキストとみなす
- 5 垂直方向に整列した単一カラムの均一ブロックテキストとみなす
- 6 単一カラムの均一ブロックテキストとみなす
- 7 画像を単一行のテキストとして扱う
- 8 画像を単語 1 つのみ含まれるものとして扱う
- 9 画像を円で囲まれた単語 1 つのみを含むものとして扱う
- 10 画像を 1 文字のだけが含まれるものとして扱う
- 11 Sparse text: 不特定の順序でできるだけ多くのテキストを探す
- 12 Sparse text: OSD あり
- 13 Raw line: 内部の処理をバイパスしつつ画像内にテキストが 1 行だけあるものとして扱う

Pcm.ini 記載例

```
[Tesseract]
```

```
Path=C:¥¥Program Files¥¥Tesseract-OCR
```

```
Lang=jpn+jpn_vert
```

```
Params=-psm 12
```

ポイントからグラデーションカラー/ステップカラー

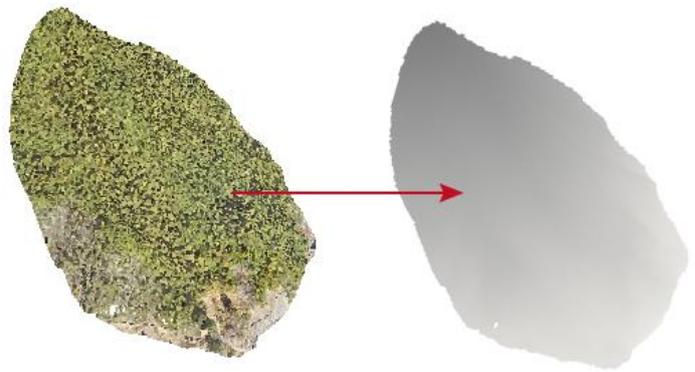
[ツール]-[カラーパラメーター]-[作成(ポイント)]

- ・[ポイントからグラデーションカラー]、
 - ・[ポイントからステップカラー]
- を追加しました。

ポイントの参照するフィールドもしくは Z 値から、対応するグラデーション、ステップ(分割数)を指定してカラー型フィールドを追加、または上書きします。

3D ビュー利用時は、追加された「Color」フィールドの従描画が ON になっていれば設定が反映されます。

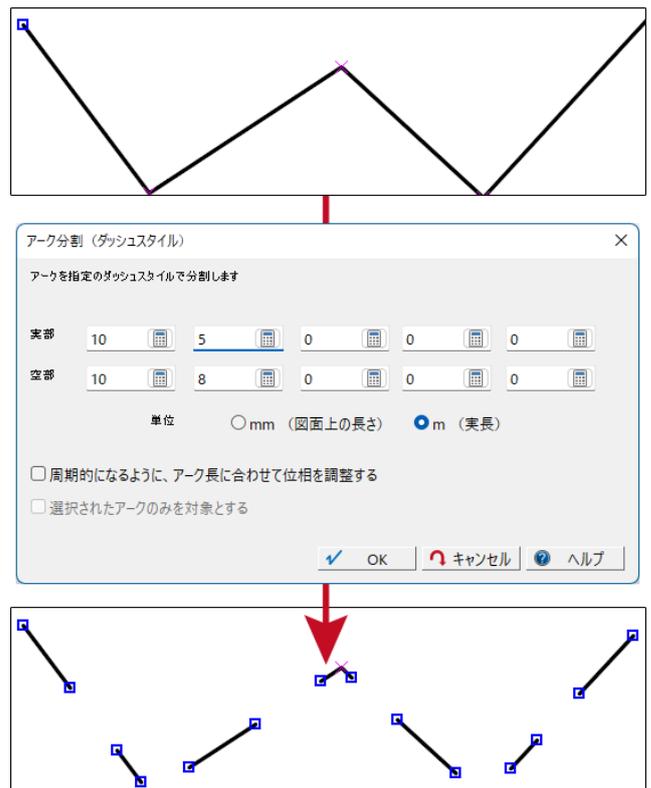
3D ビューでレイヤーポイントデータを(点群として)表示する際、内部属性フィールドに「Red」「Green」「Blue」のフィールドがあればこれをカラー値として表現しますが、「カラー型」で、「従描画」キーが ON のフィールドがあれば、優先して RGB として扱い、描画するようになります。



[アーク分割(ダッシュスタイル)]機能追加

[編集]-[編集]-[編集作図]-[アーク分割(ダッシュスタイル)]を追加しました。

前景レイヤーのアークを指定のダッシュスタイルで分割します。



楕円体球面上での面積 オプション

計算フィールド

計算フィールドに、**\$DimensionS** を追加しました。

ポリゴンの内部属性データベースの場合は、**ポリゴンの楕円体球面上での面積**を取得します。その他に設定されている場合は 0 が入ります。

[固有属性転記]ポリゴン転記時

[属性]-[オプション]-[属性転記]-[固有属性転記]のポリゴン転記時に、「**面積(楕円体球面上での面積)**」を追加しました。

※経緯度座標系の場合に有効です。

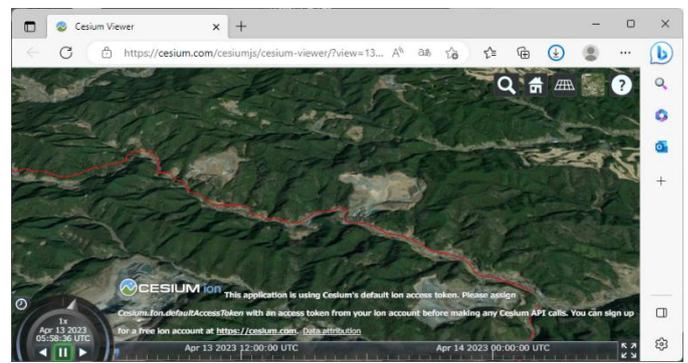
地理院地図で採用されている[計算方法](#)で計算しています。

CZML 形式ファイルへのエクスポート

[エクスポート]-[その他]-[CZML 形式ファイルを出力]を追加しました。

Cesium で利用できる CZML 形式ファイルを出力します。

[Cesium Viewer](#) 等で出力データを確認できます。



GTFS ファイル読み込み

[インポート]-[国土交通省]-[静的バス情報フォーマット(GRFS-JP)]機能を追加しました。

国土交通省により標準化が勧められた静的バス情報フォーマット(GTFS-JP)のデータをインポートします。

参考 [国土交通省:技術資料](#)



[カスタマイズ保留]コマンドオプション追加

[ワークスペース]-[カスタマイズ]-[カスタマイズ保留]

コマンド `RibbonBarCustomLoad` に、以下のオプションを追加しました。

- On …カスタマイズ保留を ON にする
- Off …カスタマイズ保留を OFF にする
- Reboot …設定後再起動する
- NoMsg …メッセージ処理をしない(*)

(*) -NoMsg の指定がない場合は、

「カスタマイズ保留モードになりました。再起動後に反映されます。いま再起動しますか？」

「カスタマイズ保留モードが解除されました。再起動後に反映されます。いま再起動しますか？」

のメッセージを出して、「はい」の場合再起動、「いいえ」の場合は再起動されるまで設定は反映されません。

Proc 系コマンド追加

Proc 系コマンドに、レイヤーフォルダー関連コマンド `Proc△LayerFolder` を追加しました。

<code>Proc△LayerFolder△フォルダー名△DispOn</code>	指定したフォルダー内のレイヤーの表示 ON
<code>Proc△LayerFolder△フォルダー名△DispOff</code>	指定したフォルダー内のレイヤーの表示 OFF
<code>Proc△LayerFolder△フォルダー名△InHouseOn</code>	指定したフォルダー内のレイヤーの内部データ化
<code>Proc△LayerFolder△フォルダー名△InHouseOff</code>	指定したフォルダー内のレイヤーの内部データ解除
<code>Proc△LayerFolder△フォルダー名△SetSetScale△ssss</code>	指定したフォルダー内のレイヤーの縮尺設定を行う
<code>Proc△LayerFolder△フォルダー名△Rename△tttt</code>	指定したフォルダーの名称を変更する

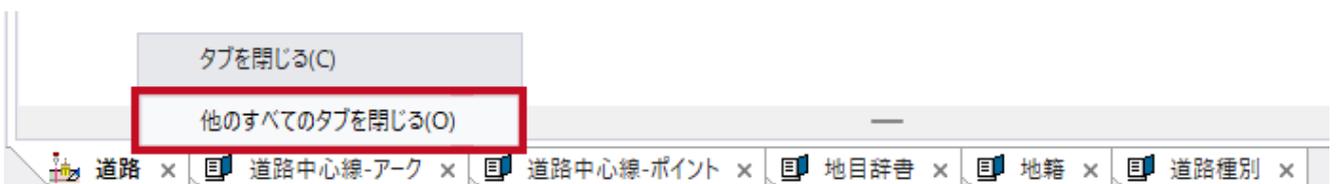
CloseAllOtherTab コマンド追加

メニューにないコマンド `CloseAllOtherTab` を追加しました。

現在、アクティブなタブ以外のタブを閉じます。タブ上のマウス右クリックでのポップアップメニュー[他のすべてのタブを閉じる]に対応しています。

オプション

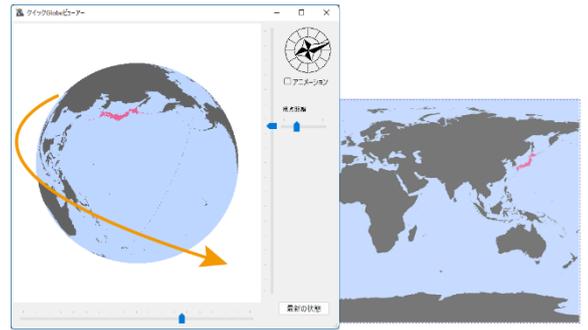
-PrjOnly …現在のアクティブなタブがプロジェクトの時のみ実行します。



地心座標系表示

以下の球面表示(地球儀状)の機能を追加しました。

- ・[ツール]-[地心座標系]-[XYZ 表示]
現在のプロジェクトデータを地心座標系(XYZ)に変換して3D 表示
- ・[ツール]-[地心座標系]-[XYZ 表示(画像化)]
現在のプロジェクトデータを画像化したのち、地心座標系(XYZ)に変換して3D 表示
- ・[エクスポート]-[その他]-[球面表示(地球儀)]
現在のプロジェクトから球面表示(地球儀)を行う HTML ファイルを出力。
- ・[イメージ]-[閲覧]-[球面表示(地球儀)]
現在のイメージデータから、球面表示(地球儀)を行う HTML ファイルを出力。



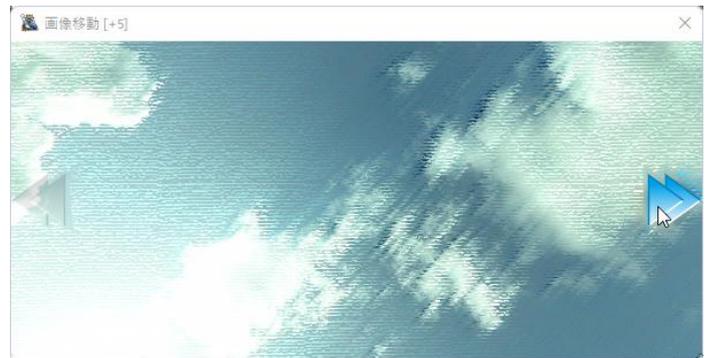
パノラマビュー機能追加

指定画像ファイルの同じフォルダーに、同種の画像ファイルが他にもある場合は、画面上に表示される[>>][<<]ボタンでも前後のファイルへ移動します。前後へ移動した場合、元のウィンドウのタイトルには、「+n」、「-n」が付与され、元のファイルからどれくらい移動したかを判定できます。

コマンドパラメーター追加

-NoNext

前や後ろの画像に移動する機能を OFF にします。



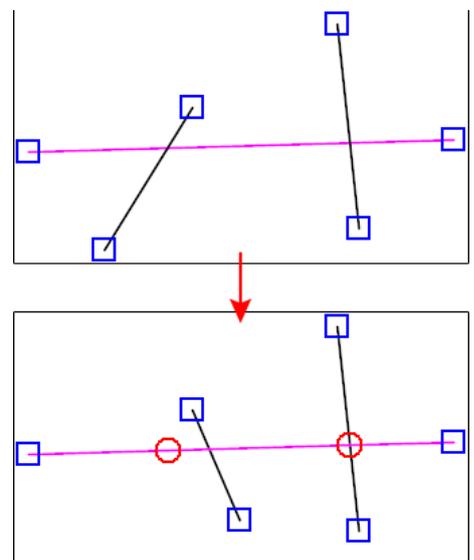
選択されているアークにのみ交点ノードを生成

[編集]-[交点・ダブリアーク]-[交点ノード生成、ダブリアーク削除]の[交点生成・ダブリアーク削除]ダイアログボックスに、

「選択されているアークのみに交点ノードを生成する」チェックボックスを追加しました。

このチェックが ON の場合、交点生成時に、選択されているアークのみに交点を生成します。

コマンドパラメーターは、ヘルプファイルを参照してください。



テンプレート再構成

[システム]-[プロジェクト]-[プロジェクト]-[テンプレートマッチング]を独立したボタンとし、
[システム]-[プロジェクト]-[テンプレート再構成]として設定しました。
レイヤーの追加や、外部ファイルへの対応、地理院地図や背景タイル情報の転記などを追加しました。

「属性データベース(内部属性を含む)のフィールド順を調整する」オプションを追加しました。属性データベースのフィールドの並びをテンプレートプロジェクトの該当データベースの並びに合わせます。また、テンプレート側にはないフィールドは末尾側に並べられます。

関連して、[インポート]-[設定]-[テンプレート設定]を追加しました。
インポート時のデータをテンプレートファイルによって行う再構成の詳細設定を行えます。

インポート時のテンプレートマッチング

下記のデータのインポート時に、該当するプロジェクトが-prmdir 指定の環境フォルダーにある場合、これをテンプレートとして読み込んでテンプレートマッチングを行います。

AutoCAD DXF	...DXF-Templ.pcm
基盤地図ダウンロードデータ	...FGDDLDD-Templ.pcm
SIMA データ	...SIMA-Templ.pcm
JSIMA データ	...JSIMA-Templ.pcm
MapInfo/MIF	...MIF-Templ.pcm
シェープファイル	...SHP-Templ.pcm
CAD 交換フォーマット	...SXF-Templ.pcm
法務上地図 XML	...MINJITizu-Templ.pcm
GeoJSON ファイル	...GeoJSON-Templ.pcm
街区レベル位置情報データ	...GAIKUIINFO-Templ.pcm
総務省統計データ	...STDATA-Templ.pcm
KML ファイル	...KML-Templ.pcm
地籍フォーマット	...CHI20-Templ.pcm

なお、マッチングパラメータは、[システム]-[プロジェクト]-[テンプレート再構成]で最後に行った時点のパラメータが使われます。

独自に設定する場合は、pcm.ini へ、

[DXF-Templ]

Layer=1

LayerAdd=1

LayerNamePartMatch1=0

LayerNamePartMatch2=0

Db=1

Render=1

DispMode=1

OverWrite=1

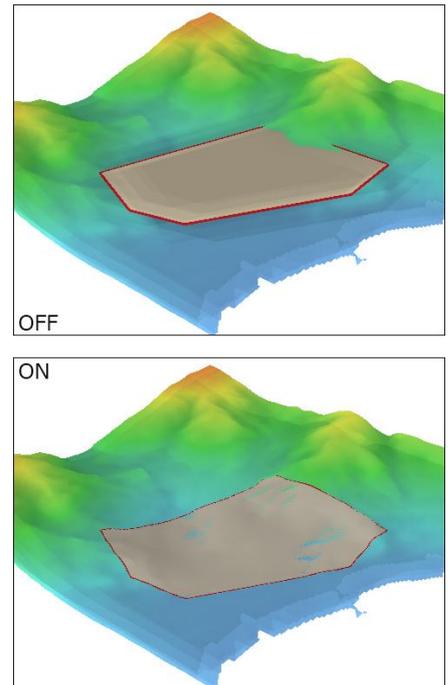
PrjKey=0

CJBK=1

などの設定で制御可能です。

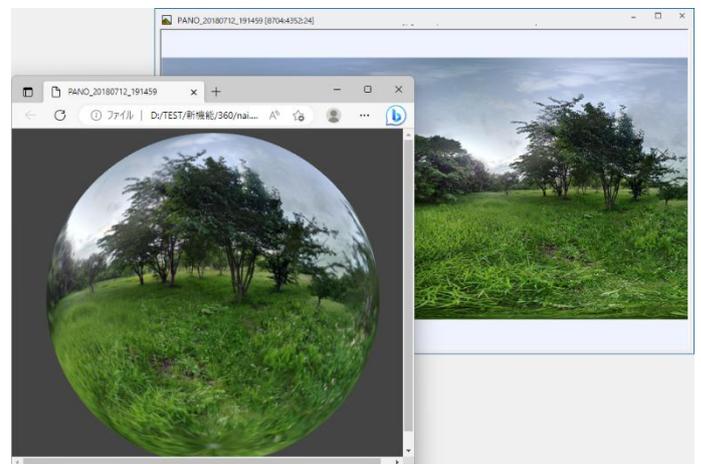
ポリゴン3Dビュー機能拡充

[編集]-[編集モード]-[レイヤー]-[ポリゴン 3D ビュー設定]
[3D]-[表示]-[ポリゴン 3D ビュー設定]に、
「標高メッシュに沿わせる」オプションを追加しました。
プロジェクトに標高メッシュがある場合は、ポリゴンレイヤー部分をイメージ
にして標高データのテクスチャーとして貼り付けて描画します。



360度 Web 閲覧

[イメージ]-[閲覧]-[360度 Web 閲覧]を追加しました。
現在の画像を 360 度静止画像として WebGL を使い、視野変更・拡大縮小等の閲覧を行う HTML ファイルを生成します。



パノラマビュー(360度静止画像ビューアー)機能拡充

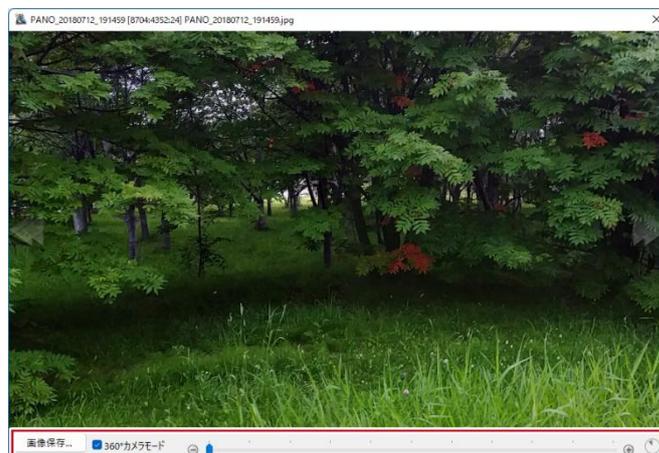
3Dコントロール

360度静止画像閲覧(パノラマビュー)のダイアログ上に3Dコントロール(図赤枠部分)を追加しました。現在見えている【画像の保存】ボタン、360度モードのOn/Offチェック、基準視野角調整スライダー、視野角マーカーが含まれます。

この機能をOFFにする(3Dコントロールを表示しない)場合は、

pcm.iniに以下を記載して下さい。

```
[LB3DViewDlg]  
Enable3DCtrl=0
```



自動判定

画像に関するリレーション起動で、以下の条件を満たした場合、360度静止画像ビューアーで閲覧されるようにしました。

- リレーション起動文字列に-Exmodeなどの指定がない
- 指定されたファイルが1つで、かつJPEGファイルである
- JPEGファイルに360度画像を示す<UsePanoramaViewer>True</UsePanoramaViewer>のメタタグがある

BigTiff保存

TIFFファイルに保存時、非圧縮で4GB以上と見込まれる場合はBigTiffとして保存されるようにしました。

この機能を抑制する時は、pcm.iniに以下を記述してください。

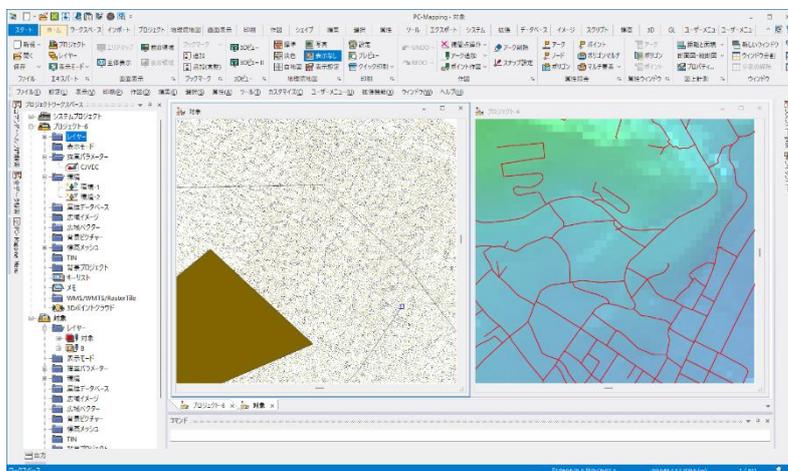
```
[SystemEnvMgr]  
LibTIFF=2
```

同時読み込みプロジェクト設定

[プロジェクト]-[表示モード]-[同時読み込みプロジェクトの設定]を追加しました。

アクティブなプロジェクトが次回読み込まれた時に、同時に読み込むプロジェクトを設定できます。

領域連動とは異なり、連動しないプロジェクトを同時に読み込みます。



間引き処理機能

[3Dビュー II]で、マウス操作による「移動」「回転」「拡大」「縮小」などの表示領域の変更時における「間引き描画処理」を導入しました。マウス操作中は応答性を重視してデータを間引いて描画し、その後、一定操作が止まった段階で(間引かない)データで再描画します。

pcm.ini でこの間引き処理での最大描画(点)数を設定可能です。

[PcmPaint3DGL]

FastPaintClp=1000000 点群データの最大描画点数

FastPaintPoint=1000000 (レイヤー)ポイントデータの最大描画点数

PaintPointSize=3 点描画の際のサイズ(ピクセル)

FastPaintPointSize=5 間引き点描画の際のサイズ(ピクセル)

FastPaintRaster=200000 画像データ(テクスチャー数)標高に添わせるポリゴン描画を含むテクスチャー最大描画数

FastPaintGTex=200000 3D テクスチャー最大描画数

FastPaintHTex=200000 標高メッシュのテクスチャー最大描画数

FastPaintTess=200000 ポリゴン等分割三角形最大描画数

※変更を反映するには、3Dビューを新たに開く必要があります。

※現状、線形、シンボル、テキスト、グリッドの間引きは行われません。

「点群」テクスチャー描画機能

一般の「点群」に関して、

- ・描画パラメーター"@CLP" レンジ 0 のポイントシンボル(ビットマップ)があれば、その画像を使って各点にテクスチャーとして貼り付けます。

- ・レイヤーのポイントデータを点群として表示している場合は、そのレイヤーのポイントが参照する描画パラメーターで レンジ 0 のポイントシンボル(ビットマップ)があれば、その画像を使って各点にテクスチャーとして貼り付けます。

いずれの場合も透過色を使って球面相当部分をくりぬいています。

3Dビュー II 上でのブックマーク利用

[ホーム]-[3Dビュー]-[3Dビュー II]実行時に、ブックマークが利用できるようになりました。

通常のブックマークと同様の操作が行えます。

Proc DispMode Layer 追加

メニューにないコマンド **Proc DispMode Layer** を追加しました。

表示モードの切り替えを行います。

Proc△DispMode△Layer△<F | B>△<ARC | NODE | POL | PNT | ETC&gr;△<0|1|2|3>△0|1

<F | B>

・・・対象レイヤー切替 F=前景レイヤー B=背景レイヤー

<ARC | NODE | POL | PNT | ETC>

・・・それぞれ アーク、ノード、ポリゴン、ポイント、その他 を対象

<0|1|2|3>

・・・[表示モード]の各チェックボックス、左からの順番

0|1

・・・ 0=Off 1=On

例)

Proc△DispMode△Layer△F△Arc△1△0 ...前景レイヤー補間点 OFF

Proc△DispMode△Layer△B△Arc△1△1 ...背景レイヤー補間点 ON

Proc△DispMode△Layer△F△NODE△0△0 ...前景レイヤーノード端点 OFF

Proc△DispMode△Layer△B△NODE△0△1 ...背景レイヤーノード端点 ON

Proc△DispMode△Layer△B△POL△3△1 ...背景レイヤーポリゴン属性表示 ON

機能追加

- 【コマ戻し】ボタンを追加
- 1/32、1/16、1/8、1/4、1/2 の低速モードを追加

(360° モード) 視野角マーカを地図上に表示する

VideoSeeker のシステムメニューに、[(360° モード) 視野角マーカを地図上に表示する]を追加しました。pcm.ini ファイルに以下の設定をすることで、視野角マーカの詳細を設定できます。

[VideoPlayDlg]

EnableFOVMarker=1

[SpriteFov]←EnableFOVMarker=1 の設定

Radial=20 半径(mm)

LineWidth=1 線幅(mm)

LineColor=RGB(0, 128, 255) 線色

LineAlpha=220 線色アルファ値

WLine=1 輪郭線(白色)あり



システムメニューに、[(360° モード) 正面位置を逆転する]を追加しました。360 度ビデオ画像の「正面」とする位置を逆転させます。

グリッド線

「グリッド線」チェックボックスを追加しました。

以下の ini 記載でも、パノラマビュー上にグリッドを表示する他、詳細設定が行えます。

[VideoPlayDlg]

Grid=1

GridLineWidth=0.5 線幅(mm)

GridLineColor=RGB(255, 255, 0) 線色

GridLineAlpha=128 線色アルファ値

GridLineStyle=2 線種

0:SOLID 1:DASH 2:DOT 3:DASHDOT

4:DASHDOTDOT

360 度静止画では、以下の記述でグリッド表示に対応しています。

[LB3DViewDlg]

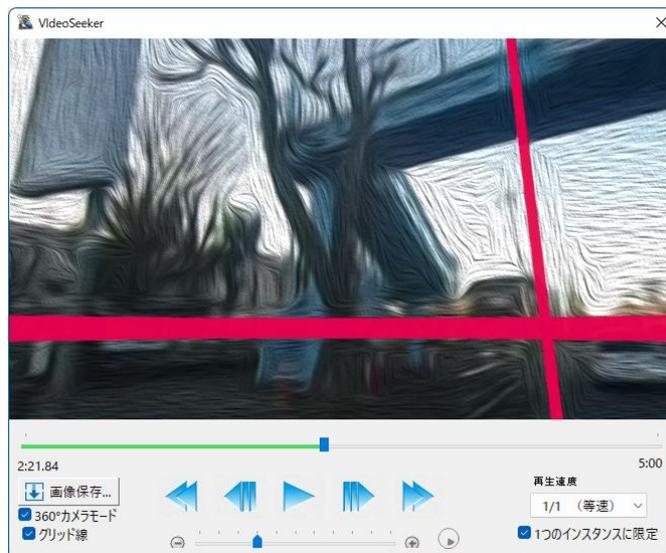
Grid=3

GridLineWidth=0.5

GridLineColor=RGB(255, 255, 0)

GridLineAlpha=128

GridLineStyle=2



プレゼンテーションビューアーパック(PVP)の構成変更

PVP は当初から実行プログラムにデータを組み込んで、起動時にデータ部分を読み取って表示するという方式を取ってききましたが、昨今のアンチウイルスソフトは世界中のユーザーの利用状況を収集した上で起動実績の少なそうな**実行プログラム(EXE)**に対しては、**とりあえず「怪しい」とする傾向**があります。そのため、PVP のような、ある意味「世界に1つ」の EXE はアンチウイルスアプリによって**「マルウェアの恐れあり」とされるケース**が散見されるようになってきています。これに対応するために、PVP の基本構成を変更し、実行プログラムとデータファイルに分離して、実行プログラム自体はファイル名のみの変更としてファイル自体は改変しないようにしました。

結果、実行プログラムのハッシュ値は固定され、当社が出荷時に付加しているデジタル署名も保全されることで、以後、プログラムが改変されていないことが証明されます。

分離されたデータファイルは拡張子 .pvp として生成され、以後の改変等を受けないよう、ファイル自体は暗号化されています。(これら以外に ウィンドウ状態の復元等に .ini .wks .ribbon .pinfo などの補助ファイルは従来通りです)

属性検索の内部変更

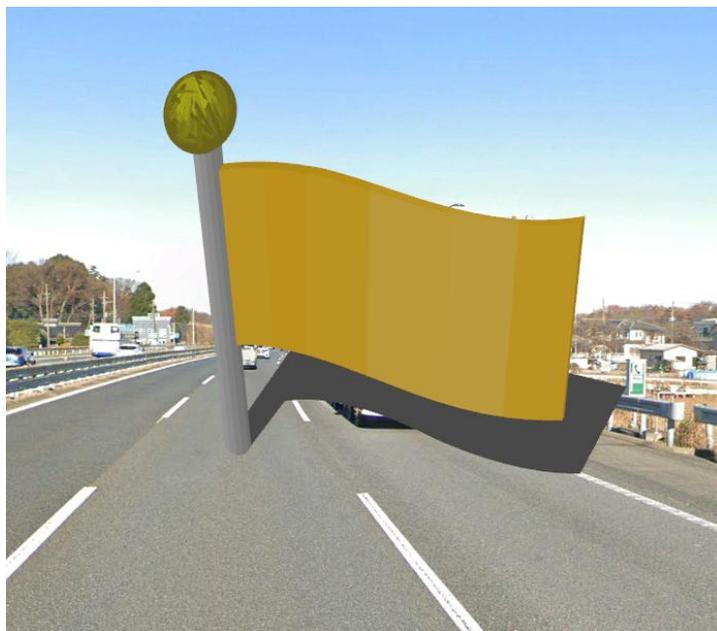
[属性検索]と関連するデータ[選択機能]で、検索機能が追加されました。

- ・文字列包含
 - ・英字の大小区別なし
 - ・1 バイト文字と、それに対応する 2 バイト文字を区別なし
 - ・日本語のひらがなとカタカナを区別なし
- で検索できます。

KML ファイルへのエクスポート

KML ファイルにエクスポートする際、ポイントデータのベクターシンボルを、3D ベクターに展開する形で出力されます。

- ・サイズはシンボル元のベクタープロジェクト(ペーパー座標ですが縮尺を加味した)サイズ(単位 m)がそのまま反映されます。
- ・描画パラメーターの「ファクター」は加味されます。
- ・Y方向(座標)をZ方向にして置き換えて展開するので、シンボルは立ち上がった形になります。
- ・厚みは 0 なため、真横から見ると見えなくなります。



Webメルカトル タイル画像エクスポート

コマンド ExportWMTile

従来のコマンドに加えて、第2のコマンドパラメーターセットを追加しました。

コマンドパラメーター その2

-zmin△nn:エクスポートするズームレベル 最小

-zmax△nn:エクスポートするズームレベル 最大

-Dir△(フォルダー):出力フォルダー

-Area△m:範囲指定

0:全レイヤー図郭範囲 1:前景レイヤー図郭範囲 2:矩形範囲図上指定 3:前景レイヤー選択ポリゴン範囲

-Blank△0|1:空白の画像も生成する

-TP△0|1:透過色の指定

-TPCC△FFFFFF:透過色を16進 RRGGBB で指定

-NNMAX△NN:まとめて生成するタイル数

-NoDlg:ダイアログを開かずに実行 (指定なきパラメータは前回時の値を使用)

-Batch:結果のダイアログを開かない

データベース関連コマンド追加(メニューにないコマンド)

Proc△Db系を追加しました。

プロジェクトに登録されているデータベースに対して有効なコマンドです。

Proc△Db△DB タイトル△InHouseOn:指定DB内部データ化

Proc△Db△DB タイトル△InHouseOff:指定DB内部データ解除

Proc△Db△DB タイトル△Rename△新タイトル:指定DB名称変更

Proc△Db△DB タイトル△Remove:指定DB登録解除

単体のデータベースに対しては、

CmdProc△Db△DB タイトル△Remove

で、該当データベースを閉じます。

座標変更関数追加(計算フィールド)

他フィールドの異なる座標系を参照して、変換する計算フィールド関数を追加しました。

DegToRectX(経度,緯度,系):緯度経度から直角座標 X

DegToRectY(経度,緯度,系):緯度経度から直角座標 Y

RectToDegB(系,X,Y):直角座標から緯度

RectToDegL(系,X,Y):直角座標から経度

OSM(OpenStreetMap) XML ファイルインポート

OSM(Open Street Map)XML形式のファイルをインポートします。

(アークとポイントに展開され、一部ポリゴン化されます)

[WaveFront OBJ 形式ファイル]出力対応

[エクスポート]-[CAD・デザイン]-[WaveFront OBJ 形式ファイル]を追加しました。

コマンド: **ExportOBJ**

レイヤーのポリゴンのZ値と、側面ポリゴン、テクスチャー画面(PLATEAU等設定)もあれば含めて、OBJ形式ファイル(*.obj、*.mtl)に出力します。

[ポリゴン3DView設定]があるレイヤーの場合、3D化したポリゴン(側面、天板あり)で出力されます。

[3D 都市モデル PLATEAU(プラトー)]インポート

[インポート]-[国土交通省]-[3D 都市モデル PLATEAU(プラトー)]

コマンド: **LoadPLATEAU**

※本機能はあくまで、上記データセットの取り込みに対応したもので、CityGml フォーマットデータを汎用的に扱うものではありません。

インポート時に、PC-MAPPING 形式に保存する以外に、WavefrontOBJ 形式や DXF ファイルに 3D 座標として出力します。Wavefront OBJ 形式には、テクスチャー画像も反映されます。

取り込む範囲と対応するプロジェクトデータを開いておけば、概ね 3 次メッシュ単位で、表示されている範囲に含まれるもののみをインポートするオプションも追加しました。

PC-MAPPING 読み込み時には**インポートと同時に直角座標に変換するオプション**も利用できます。

ZIP ファイルが指定された場合は以下の単位でエクスポートします。

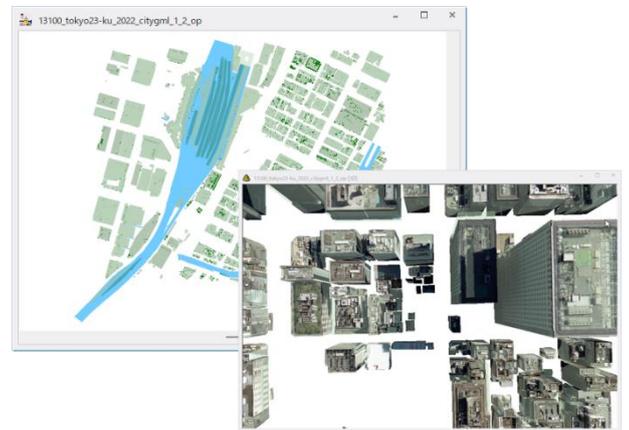
pcm ファイル⇒ZIP ファイル単位

DXF ファイル⇒ZIP ファイル内のレイヤー単位

WaveFront OBJ 形式⇒最小ファイル単位(3 次メッシュ、2 次メッシュ)



読み込む範囲を指定



メッシュ単位でデータ読み込み

[文字列引き出し先ポイントの生成]機能追加

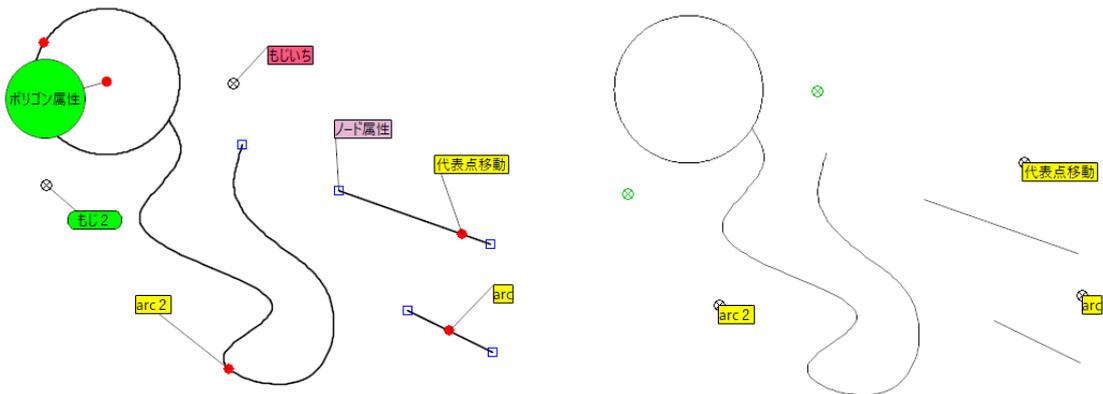
[編集]-[編集]-[編集作図]-[文字列引き出し先ポイントの生成]を追加しました。

ポイント等に設定されている文字ボックス型の引き出し線情報から、引き出し位置にポイントとして実体化したレイヤーを新規に生成します。

元画像



アークの代表点移動先にポイント生成



OSM (OpenStreetMap) XML インポート

[インポート]-[汎用/GIS]-[OSM(OpenStreetMap) XML ファイル]を追加しました。
Open Street Map XML 形式のファイルをインポートできます。データは、アークとポイントに展開されます。

VideoSeeker (360 度動画) 表示強化

360° カメラモード時のシステムメニューに[(ビデオ)センターマーカを表示する]を追加しました。
「360° カメラモード」利用時、このメニューを実行すると、VideoSeeker 上に、センターマーカを表示します。
線の表示状態は、pcm.ini ファイルで変更できます。

[VideoPlayDlg]

CenterMarkerWidth=1

センターマーカ線の線幅 (mm)

CenterMarkerColor=RGB(0, 128, 255)

センターマーカ線色

CenterMarkerAlpha=1

センターマーカ線色アルファ値

CenterMarkerStyle=1

センターマーカ線スタイル

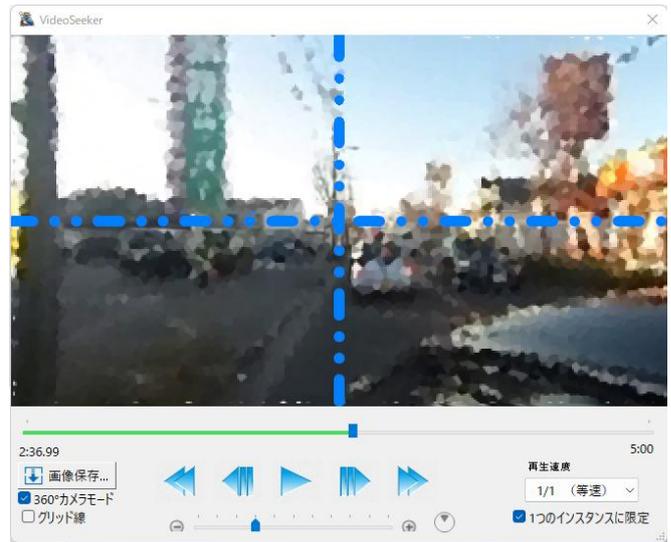
0:SOLID

1:DASH

2:DOT

3:DASHDOT

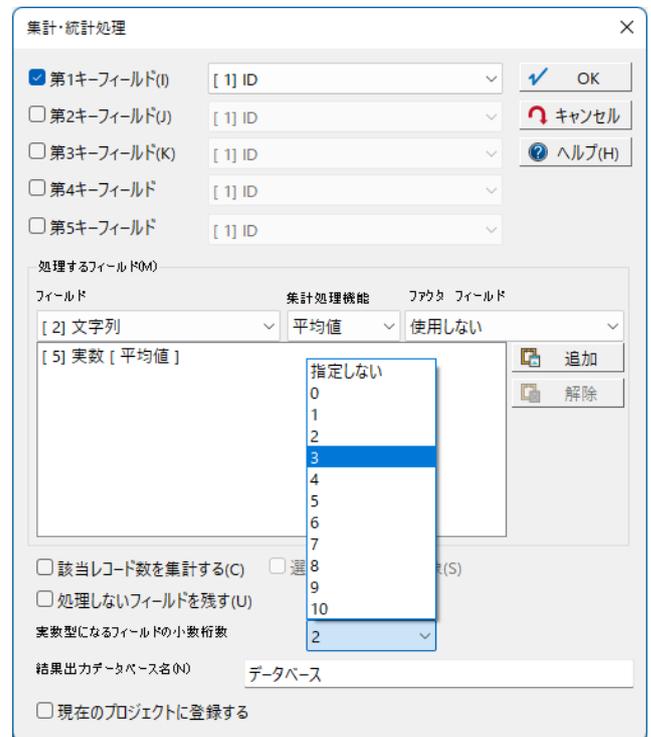
4:DASHDOTDOT



実数型のフィールド小数桁数

[データベース]-[編集]-[演算・集計]-[集計・統計処理]、
[データベース]-[編集]-[演算・集計]-[クロス集計]

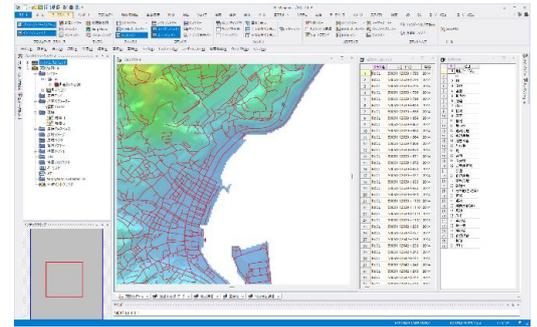
実行時に実数型になるフィールドの小数桁数を明示的に指定できるようにしました。



「MDITILE」コマンド追加

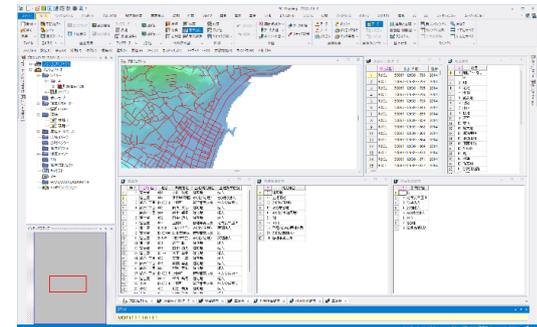
例 1) MDITILE△3△1△1

ベクターウィンドウが1つ、データベースウィンドウが多数あった場合
ベクターウィンドウに、「3/5」の幅を割り当て、
次のデータベースウィンドウに「1/5」
その次のデータベースウィンドウに「1/5」の幅を割り当て、
残りはアイコン化します。



例 2) MDITILE△3△1△1△0△1△1△1

(0をセパレーターとして、2段組となります)
ベクターウィンドウが1つ、データベースウィンドウが多数あった場合、
ベクターウィンドウに「3/5」の幅と1/2の高さを割り当て、
次のデータベースウィンドウに「1/5」その次のデータベースウィンドウに
「1/5」の幅と「1/2」の高さを割り当て、
次の段に
その次次のデータベースウィンドウに「1/3」
その次次次のデータベースウィンドウに「1/3」
その次次次次のデータベースウィンドウに「1/3」の幅と「1/2」の高さを割
り当て、残りはアイコン化します。



例1)、例2)では、ベクターウィンドウが優先されますが、
その順番やデータベースウィンドウの順番も基本的にウィンドウの生成された順番になります。

例 3) MDITILE△3△1△1△-T△利用種目辞書△-T△筆属性

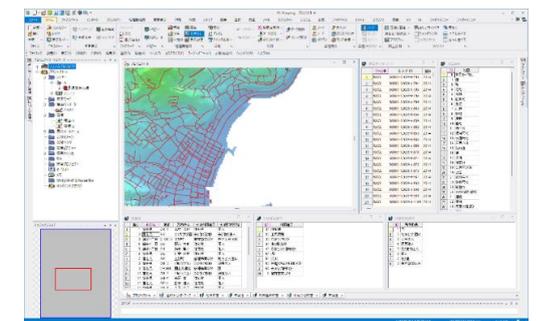
ベクターウィンドウが1つ、データベースウィンドウが多数あった場合
ベクターウィンドウに「3/5」の幅を割り当て、
「利用種目辞書」データベースウィンドウに「1/5」
「筆属性」データベースウィンドウに「1/5」の幅を割り当て、
残りはアイコン化します。

-T=ドキュメントタイトル(同じタイトルが複数あった場合は不定)
ベクタードキュメントも指定できる(複数あった場合の優先順番)

すべてにおいて、ベクターウィンドウを優先し、データベースウィンドウを
従として処理します。それ以外のイメージ、標高メッシュなどのウィンドウは対象外で、アイコン化されます。

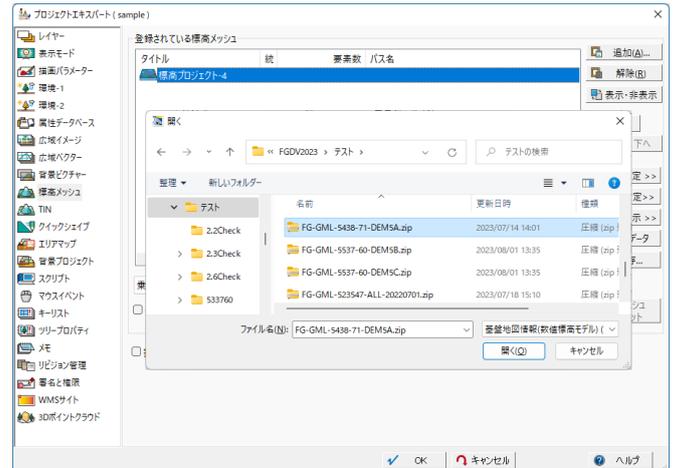
例 2A) MDITILE△3△1△1△-2△1△1△1(0)

(0もしくは負の数をセパレーターとして、段組します)
負の数の絶対値(0の場合は1とみなされる、最後のセパレーターが省略された場合は1とみなされる)を
高さ方向の重みとして、例 2A)の場合、上段に「2/3」を、下段に 1/3 を割り当てます。



プロジェクトエキスパートで、基盤地図データ(標高)追加

[プロジェクトエキスパート]-[標高]パネル-[追加]ボタンから「**基盤地図データ(標高)**」が読み込めるようになりました。



極心平射(ステレオ)図法(南極・北極)

[編集]-[図法変換]-[図法変換]に[極心平射(ステレオ)図法(南極・北極)]を追加しました。

南極、北極を中心として、経緯度から平射(ステレオ)図法に変換、または、極心平射(ステレオ)図法から経緯度に変換します。

属性検索方法

[属性]-[検索]-[属性検索]の

検索方法として、「部分一致」、「厳密一致」、「曖昧検索」(*)を選択できるようになりました。部分一致、厳密一致では、「辞書引き後で検索」「英字の大きを区別」の指定が可能になりました。

(*)曖昧検索では、

- 「文字列包含」
- 「英字の大小区別なし」
- 「1 バイト文字と、それに対応する 2 バイト文字を区別なし」
- 「日本語のひらがなとカタカナを区別なし」

で検索します。

AttrSrch 新型 コマンドオプション

-Layer (対象レイヤー名)

-Mode 0|1|2 ... 0:部分一致 1:厳密一致 2:曖昧検索

-Type 0|1|2|3 ... 0:アーク 1:ノード 2:ポリゴン 3:ポイント

-FixScale 0|1 ... 1:検索後も縮尺は固定

-Dic 0|1 ... 1:辞書引き後で検索

-Case 0|1 ... 1:英字の大きを区別

「全データ検索」機能アップ

[属性]-[検索]-[全データ検索]の

検索方法として、「末尾一致」と「曖昧検索」(*)を追加しました。

(*)曖昧検索では、

- 「文字列包含」
- 「英字の大小区別なし」
- 「1 バイト文字と、それに対応する 2 バイト文字を区別なし」
- 「日本語のひらがなとカタカナを区別なし」

で検索します。

[メッシュポリゴン生成]にオプション追加

[編集]-[ポリゴン]-[生成]-[メッシュポリゴン生成]

コマンド「PolMeshTrace」に新型オプションを設定しました。
詳しくはヘルプファイルをご参照ください。

ビデオファイルから GPS 情報抽出

[システム]-[GPS]-[GPS ログから軌跡ベクター生成]に、【ビデオファイルから GPS 情報抽出】ボタンを追加しました。
以下のファイルをダウンロードし、PC-MAPPING インストールフォルダー内(「gpx.fmt」は、「Prmdir」指定がある場合は環境フォルダー)に置くことで、実行可能です。

指定の MP4 ファイルから、GPX ファイルを生成します。

「Exiftool.exe」<https://exiftool.org/>

「gpx.fmt」https://github.com/exiftool/exiftool/blob/master/fmt_files/gpx.fmt

領域連動プロジェクトでのカーソルアイコン

表示領域連動機能において、アクティブなビュー上でカーソル移動に連動して、スレーブビュー上で該当位置にマーカーが表示されます。

システムプロジェクトに

「@SlaveCenter」という描画パラメーターを作成し、
ポイントシンボルのレンジ「1」に有効なシンボルを設定します。

本機能に追加して、

Slave 側プロジェクトのキーリストから、表示縮尺に応じて、マーカーのサイズを変更できます。

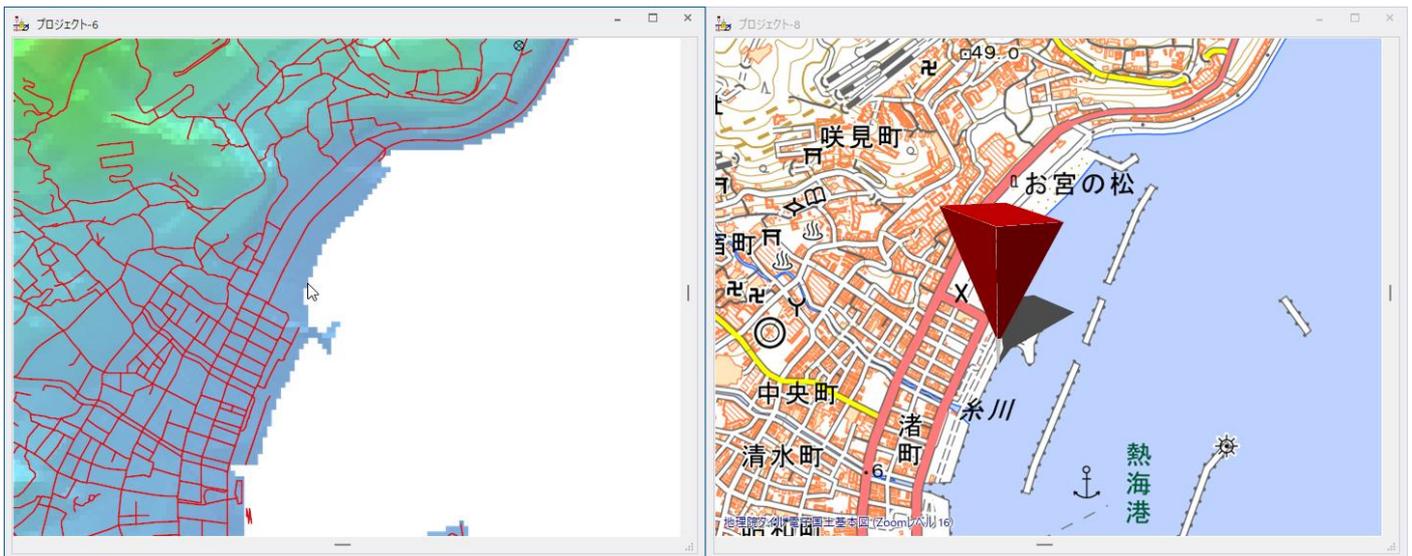
@SlaveCenterBaseScale = 2500

また、

@SlaveCenterBaseMin = 10000

@SlaveCenterBaseMax = 500

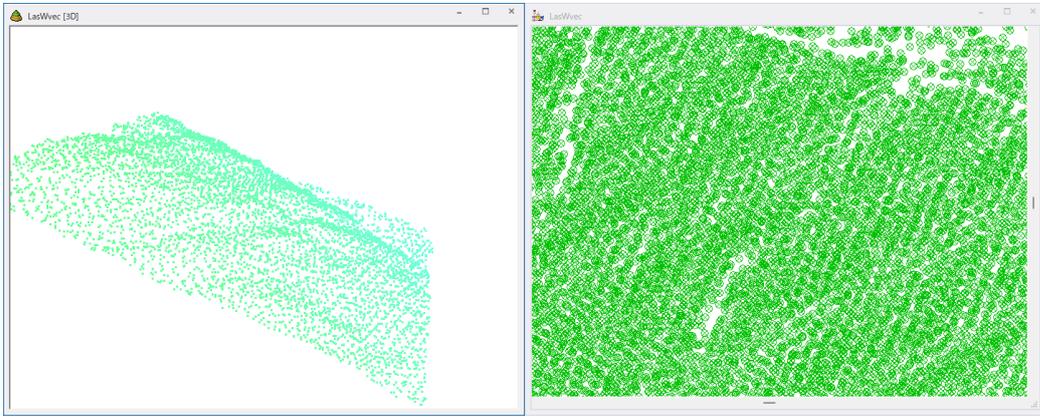
があれば、それ以下、以上の縮尺では 縮小・拡大されないように上限を定めます。



[インポート]-[LAS]-[広域ベクター変換]

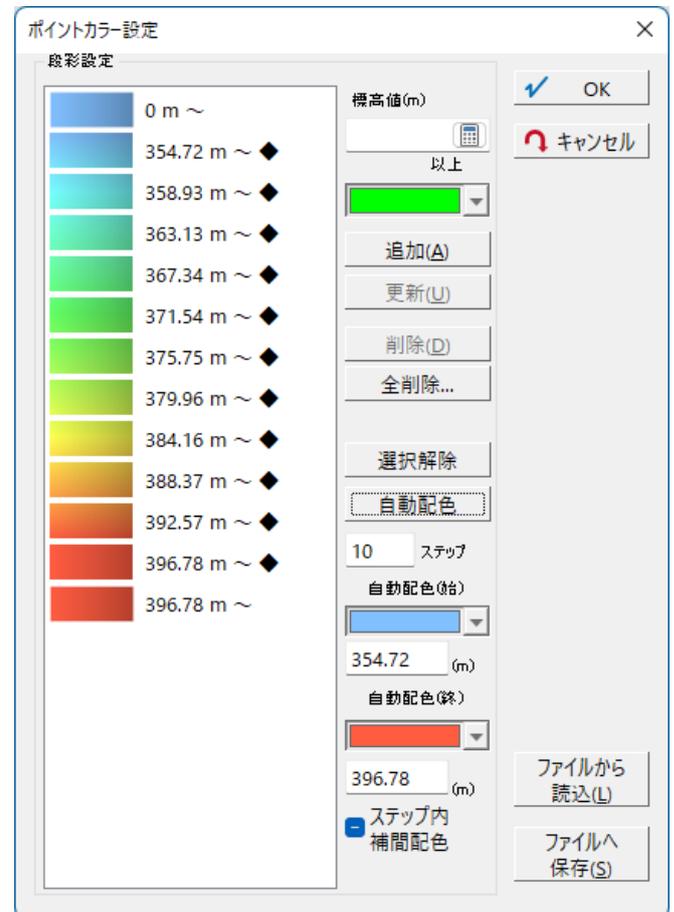
[インポート]-[LAS]-[広域ベクター変換]を追加しました。LAS ファイルデータを解析し、一定点数以内に収まるよう、領域分割した広域ベクター(複数)に変換します。この広域ベクターを持つプロジェクトで、「3Dビュー II」を実行時には、広域ベクターの点データも点群データ対象として取り込まれ 3D 表示されます。

[プロジェクトエキスパート]-[広域ベクター]パネル-[スロットの特性]ボタンから、「全レイヤーを非表示にする」を ON にすることで、2D 上でポイント群が非表示でも、3D 上で点群を表示することができます。



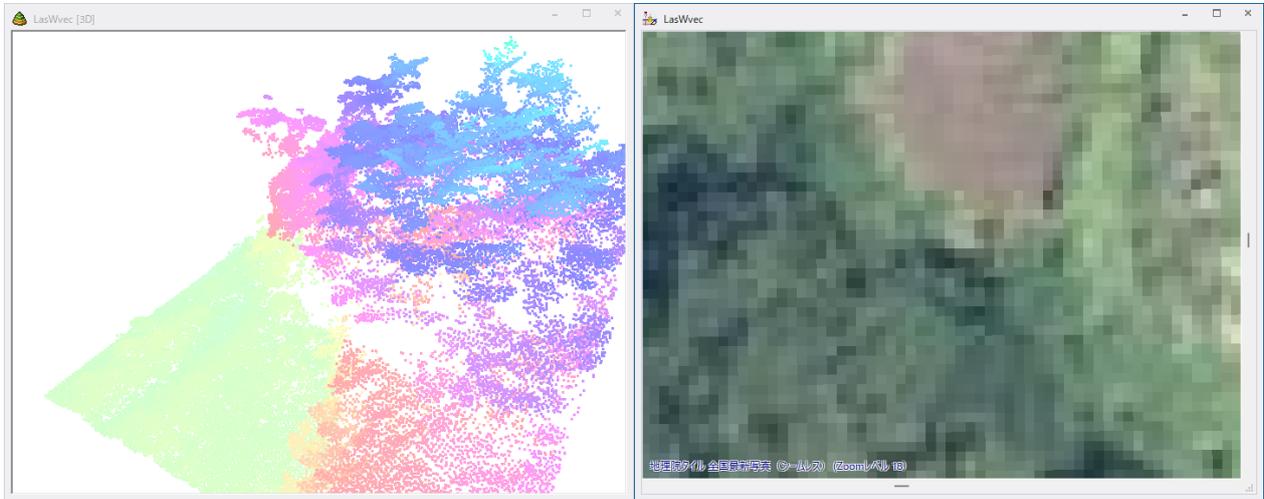
[3D]-[表示]-[レイヤー点群(ポイント)標高カラー設定]

[3D]-[表示]-[レイヤー点群(ポイント)標高カラー設定]を追加しました。レイヤーポイント点群データの標高値に応じたカラー表示設定を行います。【自動配色】ボタンを押すことで、グラデーション設定が行えます。



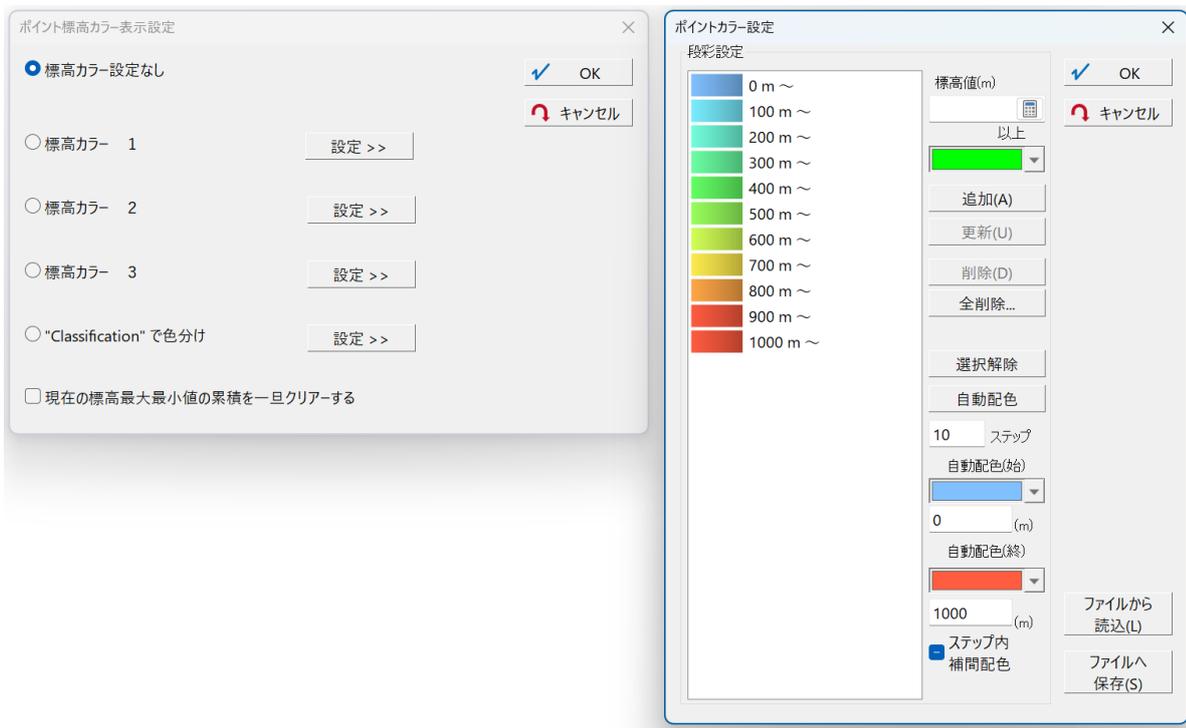
[3Dビュー]-[表示]-[2Dビュー連動]

[3Dビュー]-[表示]-[2Dビュー連動]がダイアログボックスで設定できる機能となりました。
あわせて、2Dビュー側の表示縮尺で連動の On/Off を制御できるようにしました。
また、「広域ベクターの点群」に関して、この連動の対象とすることができます。



[3D]-[表示]-[レイヤー点群(ポイント)標高カラー設定]

[3D]-[表示]-[レイヤー点群(ポイント)標高カラー設定]を追加しました。
レイヤーポイント点群データの標高値に応じたカラー表示設定を行います。

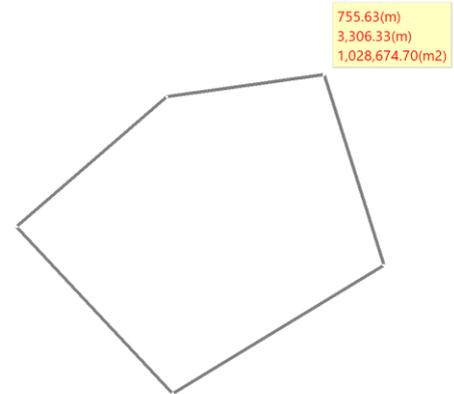


「AttrSrch」に新しいコマンドオプションを追加

「内部属性データの検索」のコマンド、「AttrSrch」に新しいコマンドオプションを追加しました。
詳しくはヘルプをご参照ください。

図上計測でのラバーバンド保持

[ツール]-[図上計測]-[プロパティ]に、「最終点クリック後もラバーバンドを保持する」チェックを追加しました。
これが ON の場合、右クリックで確定させた時点ではラバーバンドはクリアされずにそのまま保持されます。
なお、ESC キーに関してはこの影響は受けません。



[属性データベース設定]-[キーリスト]キーの追加

各ベクター内部属性ウィンドウの[属性データベース設定]-[キーリスト]パネルに以下のキーを追加しました。

- 「@TextEdge」
- 「@TextEdgeColor」
- 「@TextEdgeWidth」

文字フォント型フィールドを利用することなく、文字設定を行うことができます。
詳細はヘルプをご参照ください。



集水域機能の追加

集水域メニューの移動

[ツール]-[標高メッシュ]-[段彩陰影図]-[集水域]メニューを、
[ツール]-[標高メッシュ]-[地形解析フィルター]の機能「集水域」
に移動しました。

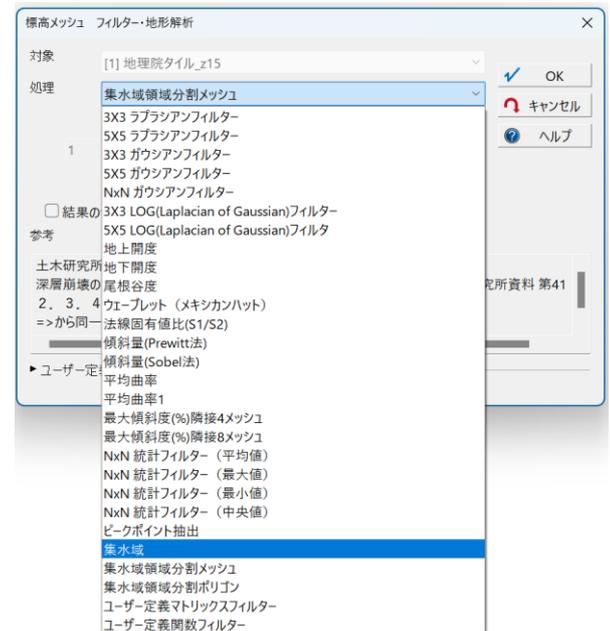
以下参考の資料に基づき、流入メッシュ数をカウントしたメッシュ
データを生成します。

参考: [土木研究所資料](#)

深層崩壊の発生の恐れのある溪流抽出マニュアル(案)

2.3.4 地形量の算出

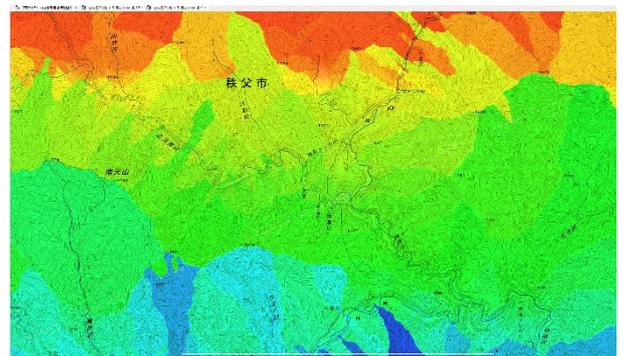
平成 20 年 11 月 土木研究所資料 第 4115 号 p12



集水域領域分割メッシュの追加

[ツール]-[標高メッシュ]-[地形解析フィルター]の機能に、
「集水域領域分割メッシュ」を追加しました。

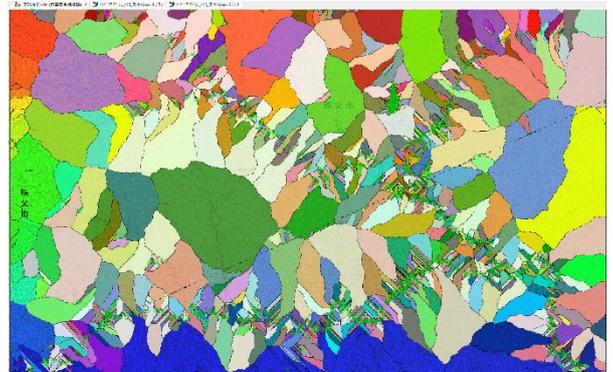
同一流入点に達するメッシュ毎に色分けする(異なる「標高値」を
付与する)ことができます。



集水域領域分割ポリゴンの追加

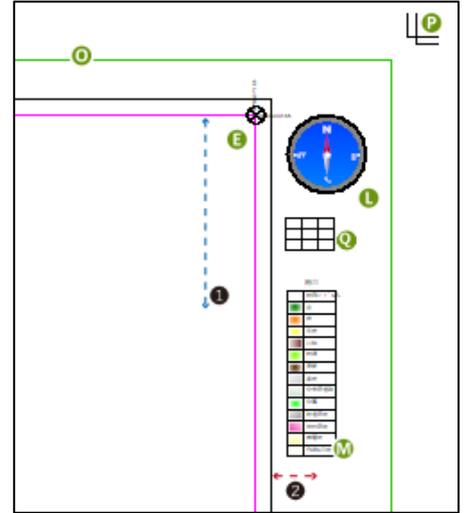
[ツール]-[標高メッシュ]-[地形解析フィルター]の機能に
「集水域領域分割ポリゴン」を追加しました。

同一流入点に達するメッシュの集まりから、レイヤーのポリゴン
を構成することができます。



整飾プロジェクトでの要素位置指定

隣接図郭表記、方位記号、凡例、凡例 2 のそれぞれの配置に関しまして、整飾プロジェクトでの位置指定を追加しました。
「内図郭上部からのオフセット」①と「外図郭右端からのオフセット」②から個別に設定を行うことができます。

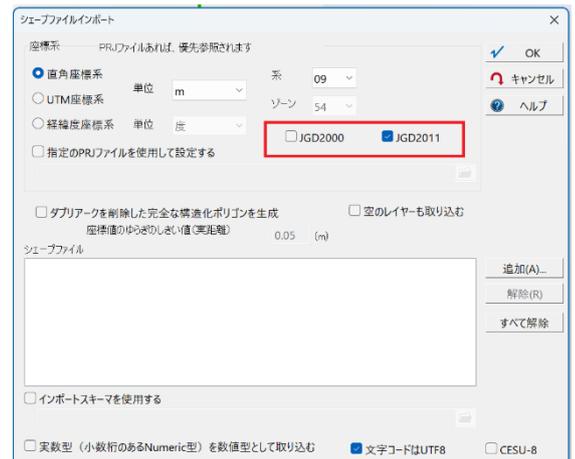


インポート設定の追加

シェープファイル

[インポート]-[汎用/GIS]-[シェープファイル]

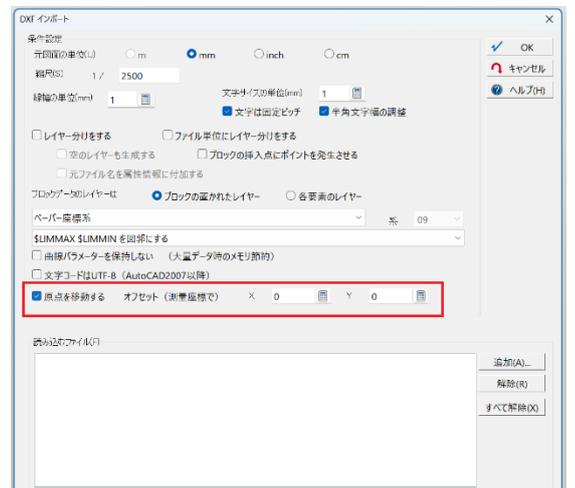
Shape データインポート時に、Prj ファイルがない場合には、従来の「世界測地系」だけでなく、「JGD2000」「JGD2011」を指定できます。



DXF ファイル

[インポート]-[CAD]-[DXF]

DXF ファイルのインポート時に、実座標へのオフセットを指定し移動させるオプションを追加しました。
原点(0, 0) で作成されたような図面に対してご活用いただけます。



MP4 から GPS ログファイル作成

[システム]-[GPS]-[軌跡ベクター生成]で、MP4 から GPS ログファイルを作成できるようになりました。

こちらを利用するには以下 2 つをダウンロードし、所定の場所においてください。

■ Exiftool.exe

ダウンロード元: [ExifTool by Phil Harvey](#)

ファイル名: Exiftool.exe

保存場所: PC-MAPPING インストールフォルダー内

■ gpx.fmt

ダウンロード元: [GitHub](#)

ファイル名: gpx.fmt

保存場所: PC-MAPPING インストールフォルダー内

「-prmdir」指定がある場合は、環境フォルダー内

また、指定の MP4 ファイルから GPX ファイルを生成するには時間がかかるため、

【ビデオファイルから GPS 情報 (GPX) 抽出】-[任意のファイルを指定する(複数指定可)...]から指定の(複数可)ファイルに対して抽出処理を行うことができます。

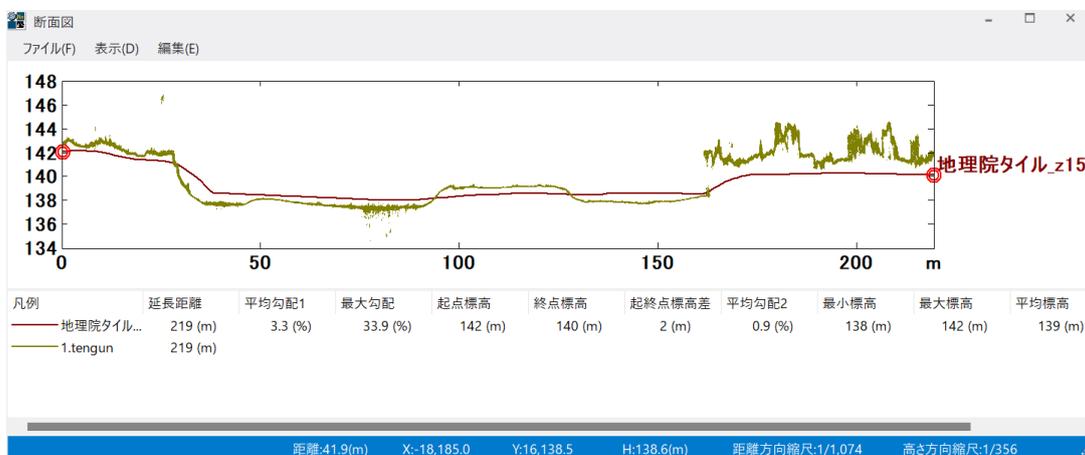


断面図ウィンドウの高さ設定

[ツール]-[図上計測]-[断面図・縦断面図]-[図上計測(断面図)]

[ホーム]-[図上計測]-[断面図・縦断面図]-[断面図]

断面図ウィンドウの、断面線のプレビューウィンドウと凡例ウィンドウの高さの比率が、前回終了時のまま復元されます。



OnKeyUp イベント

プロジェクトエキスパート

プロジェクトエキスパートのスクリプトにおいて、OnKeyDown でキーが押された際のイベント発生と同様に、OnKeyUp でキーが離された際のイベント発生を指定できます。

データベース設定

データベース設定のスクリプトにおいて、OnKeyDown でキーが押された際のイベント発生と同様に、OnKeyUp でキーが離された際のイベント発生を指定できます。

Z 値の付与

付与の選択肢追加

[編集]-[編集]-[Z 値]-

[TIN、標高メッシュから Z 値付与]に

「ポイントクラウドから Z 値付与」のチェックに加え、オプション

- 「標高メッシュから Z 値付与」
- 「TIN から Z 値付与」を追加しました。



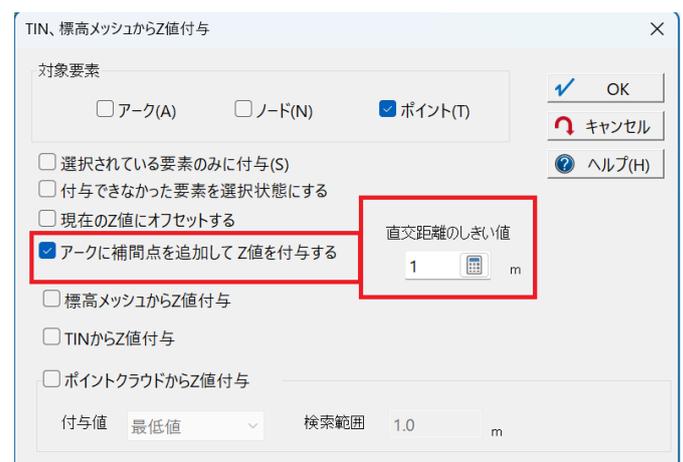
「アークに補間点を追加して Z 値を付与する」オプションの追加

[編集]-[編集]-[Z 値]-

[TIN、標高メッシュから Z 値付与]に

オプション

「アークに補間点を追加して Z 値を付与する」を追加しました。



PVP 起動バグ修正

外部ファイルを参照するプロジェクトから PVP を生成し、他のフォルダーやドライブで実行する際、外部ファイルが開けない、PVP 自体が起動に失敗する場合があるバグを修正いたしました。

「アークセグメントを補間する」オプション

【編集】-[図法変換]-[図法変換]-[直角・UTM 座標から経緯度座標へ]-[経緯度座標から直角座標へ]

図法変換をする際、長いアークセグメントが実際の位置から外れてしまうのを抑止するため、「アークセグメントを補間する」オプションを追加しました。

補間パラメータはしきい値を表しており、本来の位置より、この値以上外れると判断されると、その位置に補間点を追加します。また、「アークセグメントを補間する」オプションは、紙面座標上での mm 単位の指定でしたが、紙面座標に変換しない場合 (UTM 座標そのままに変換する場合) は、上記と同様に実長 m 指定で行えるようになりました。



アークゆがみ抑制のしきい値の指定

【ツール】-[表示領域]-[図郭コード]-[表示領域の図郭コード等]ダイアログで、

図郭をレイヤーデータにする際に、図法変換を伴う場合、長いアークセグメントが図法変換で実際の位置から外れてしまうのを抑止するため、「アークゆがみ抑制のしきい値(実長)」の指定をするオプションを追加しました。



[背景イメージ座標付き保存]へオプション追加

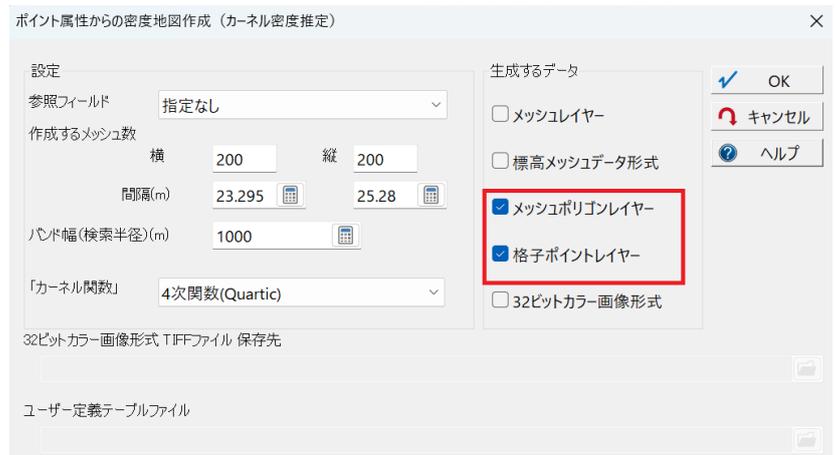
[編集]-[編集]-[背景イメージ]
-[背景イメージ、ピクチャーの座標付き保存]で

- GeoTiff 保存時は TIFF 圧縮方法
 - JPEG 保存時は品質パラメーター
- が指定できるようになりました。



[カーネル密度推定]ダイアログ更新

[ツール]-[空間統計解析]-[カーネル密度推定]のダイアログを更新しました。
生成するデータに、以前からあった「メッシュレイヤー」、「標高メッシュデータ形式」、「32ビットカラー画像形式(TIFF ファイル)」に加え、「メッシュポリゴンレイヤー」「格子ポイントレイヤー」が追加されました。
また、これらの出力形式を複数同時に実行できます。
※32ビットカラー画像形式(TIFF ファイル)に関しては、直接ファイルに保存されます。



データベースリンクの絞り込み表示の抑制

[データベースリンクの絞り込み表示](#)に関して、
pcm.ini ファイルで
[DicKeyMenu]
NoRefine=1
を設定することで、絞り込み表示を抑制できます。

マーカーの表示

[システム]-[パノラマ]-[360 度静止画像閲覧]

コマンド **PanoramaView** において、システムメニューに

- ・「センターマーカーを表示する」
 - ・「視野角マーカーを地図上に表記する」
- を追加いたしました。

■ 視野角マーカー

現在ダイアログ上に見えている概ねの視野角を地図上に表記します。方向等を指定する場合には、コマンド **PanoramaView** のオプション設定が必要です。

PanoramaView△オプション

コマンドの後ろに半角スペースを区切りとして、パラメーターを記述します。

-Dir: 角度オフセット

カメラの原点方向(北を 0 度として時計回り)

-Title: ウィンドウ名

パノラマビューのウィンドウ名

計算フィールド等で、他フィールドの内容をタイトルとして表示させることも可能です。

例:「C:¥sample¥photo¥○○通り.jpg」を「○○市」というウィンドウ名にしてパノラマビューを表示する。

PanoramaView△C:¥sample¥photo¥○○通り.jpg△-Title△○○市



グリッド線

ダイアログ上に「グリッド線」のチェックを追加いたしました。

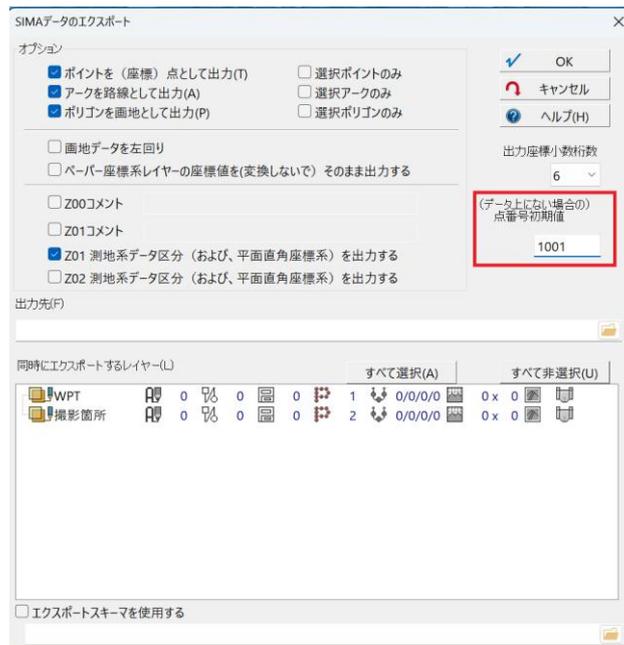
360 度モード時に、仮想球面において、

- ・正面方向
- ・正面から 90 度横方向
- ・水平面方向・円周上 にグリッド線を描画します。



SIMA のエクスポートオプション追加

[エクスポート]-[測量]-[SIMA]-[SIMA データのエクスポート]ダイアログで、データ上に点などの番号がない場合の、点番号初期値が指定できます。
なお、0 以下を指定した場合は、指定なしとして従来通り 1001 からとなります。



「住居表示住所」データインポートオプション追加

[インポート]-[国土地理院]-[国土基本情報]-[電子国土基本図(地名情報)「住居表示住所」データ]のインポート処理時、文字コード「UTF8」に対応いたしました。

<参考> 国土地理院 HP

■ [【予告】地名情報で取り扱う漢字の仕様を変更します。](#)

■ [電子国土基本図\(地名情報\)「住居表示住所」の閲覧・ダウンロード](#)

[360度静止画像閲覧]画質調整オプション追加

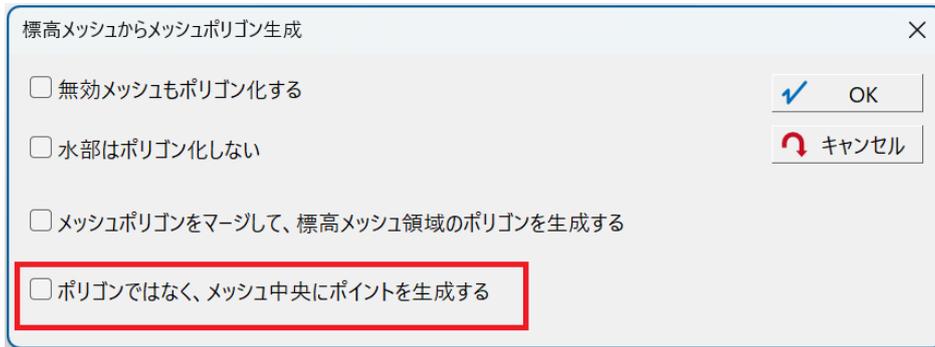
[システム]-[パノラマ]-[360度静止画像閲覧]に、「画質調整」機能を追加しました。

パノラマビュー表示時のダイアログ、【画質調整】ボタンから、明るさとコントラスト(ガンマ補正)の調整が行えます。また【画像保存】ボタンでは、画質調整をした画像をファイルとして保存できます。



[メッシュポリゴン生成]にオプション追加

[編集]-[標高メッシュ]-[編集]-[メッシュポリゴン生成]で、
「ポリゴンではなく、メッシュ中央にポイントを生成する」オプションを追加しました。



[背景ピクチャー]パネル -[再初期化]ボタン

[プロジェクトエキスパート]-[背景ピクチャー]パネル -[再初期化]処理に関しまして、データの対象が指定できます。

以下の場合は**すべてのデータを対象**とします。

- 選択されているものが無い場合
- ルートフォルダーが選択されている場合
- 選択されているフォルダーに背景ピクチャーが1つも無い場合

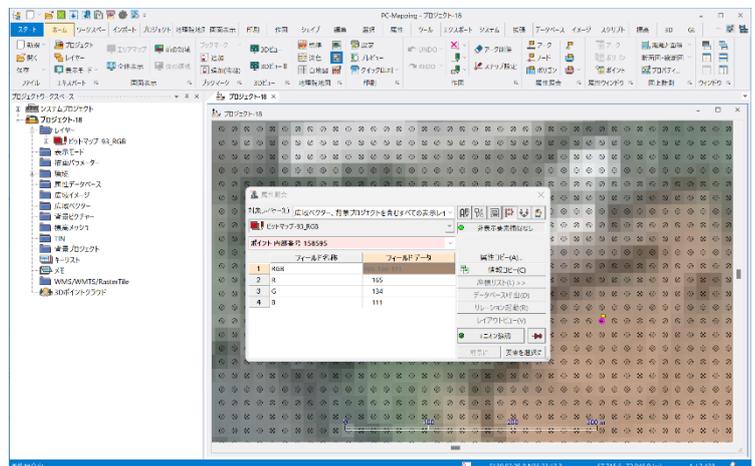
以下の場合は**選択されているデータのみを対象**とします。

- 選択されている背景ピクチャーがある場合
- 背景ピクチャーのあるフォルダーが選択されている場合

[画素位置にポイントデータを生成]追加

[イメージ]-[変換]-[特殊]

-[画素位置にポイントデータを生成]を追加しました。
画像の各画素位置にポイントを置いたレイヤーを生成し、カラー情報が属性に付加されます。



データベースのパス設定

データベースをインポートした際、これまで*.ndv の場合のみ、パス名を内部的に記憶し、リレーションなどが付加された場合、相対パスから絶対パスへの起点として利用できました。
こちらが、*.csv/.*.dbf/.*.mdb などからインポートした場合も利用できます。

行政コード処理

静岡県浜松市区再編に伴う全国地方公共団体コード変更に対応しました。

参考: 浜松市 HP

[区再編に伴う全国地方公共団体コードの変更について](#)

「ポリゴン存在範囲の矩形ポリゴン生成」オプション追加

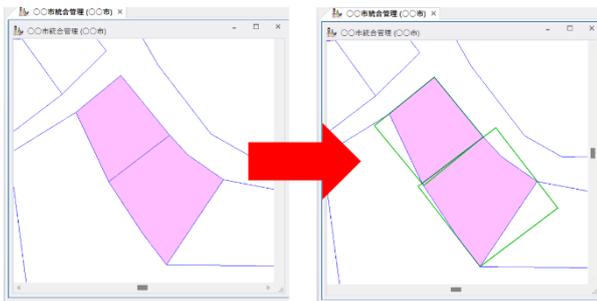
【編集】-[ポリゴン]-【応用】

-【ポリゴン存在範囲の矩形ポリゴン生成】へ、

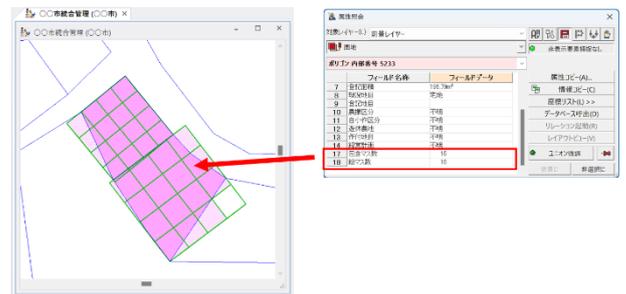
「仕上がり長方形を $N \times N$ 分割して、

元図形に対して部分包含するマス目数を計測する」オプションを追加しました。

集計されたマス目数は、元のポリゴン属性に「包含マス数」と「総マス数」フィールドが設定され、そちらへ付与されます。



矩形ポリゴンの生成



ポリゴン内部属性へのマス目数付与

またこちらのコマンド、"PoItoRect" にオプションを追加しました。

-Margin△(数値)・・・マージンを指定する(%)

-Sel△(数値 0 か 1)・・・1:選択ポリゴンのみを対象とする

-Rot△(数値 0 か 1)・・・1:面積が最小になるように回転する

-Union△(数値 0 か 1)・・・1:ユニオンがあれば、ユニオン単位で生成する

-MarginEx△(数値 0 か 1)・・・1:上下左右独立したマージンをとる

-DegMargin△(数値 0 か 1)・・・1:(経緯度座標系の場合、実長ではなく)経緯度単位でのマージンをとる

-MarginEx1△(数値)・・・左マージンを指定する(%)

-MarginEx2△(数値)・・・下マージンを指定する(%)

-MarginEx3△(数値)・・・右マージンを指定する(%)

-MarginEx4△(数値)・・・上マージンを指定する(%)

-IDIV△(数値)・・・分割処理の分割数指定 0:なし 1:なし

2:2x2 3:3x3 4:4x4 5:5x5 6:6x6 7:7x7 8:8x8 9:9x9 10:10x10

テクスチャー画像を 3D に貼り付けて表示

標高メッシュの 3D ビューでの表示

従来は、2D 上で標高メッシュが表示されている時のみ、3D ビューで表示できましたが、テクスチャー画像の指定があれば、標高メッシュが非表示な場合でも、テクスチャー画像は 3D ビューで表示できるようになりました。

合わせてテクスチャー画像の指定方法が追加されました。
■[プロジェクトエキスパート]-[キーリスト]から「DEMTex」キーで指定されたレイヤーの背景画像が、テクスチャー画像として指定できます。(従来の方法)

■プロジェクトのキーリストに特段の記述がない場合、標高プロジェクトと同一名称のレイヤーがあれば、その背景画像をテクスチャー画像として表示できます。



TIN の 3D ビューでの表示

従来は、2D 上で TIN フレームが表示されている時のみ、3D ビューで表示できましたが、テクスチャー画像の指定があれば、TIN フレームが非表示な場合でも、テクスチャー画像は 3D ビューで表示できるようになりました。

合わせてテクスチャー画像の指定方法が追加されました。
■[プロジェクトエキスパート]-[キーリスト]から「TinTex」キーで指定されたレイヤーの背景画像が、テクスチャー画像として指定できます。(従来の方法)

■プロジェクトのキーリストに特段の記述がない場合、TIN と同一名称のレイヤーがあれば、その背景画像をテクスチャー画像として表示できます。

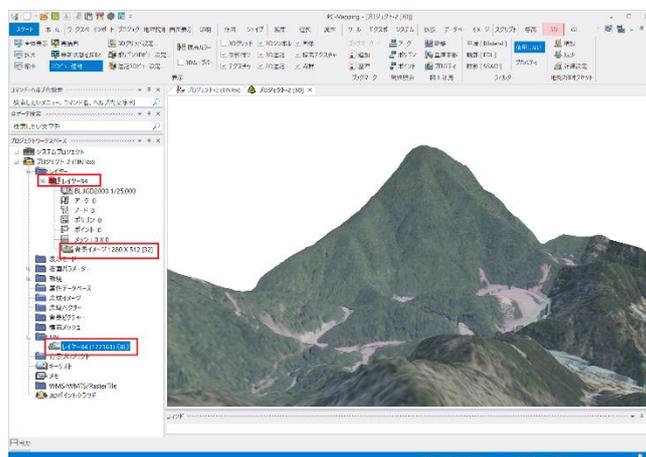
※今回の仕様変更部分である、テクスチャー画像の表示に関して、

プロジェクトのキーリストに

@DEMTEXDISP = 0

@TINTEXDISP = 0

を記述することで、従来通り、2D で表示されている時のみの表示となります。



詳しい手順につきましては、こちらをご参照ください

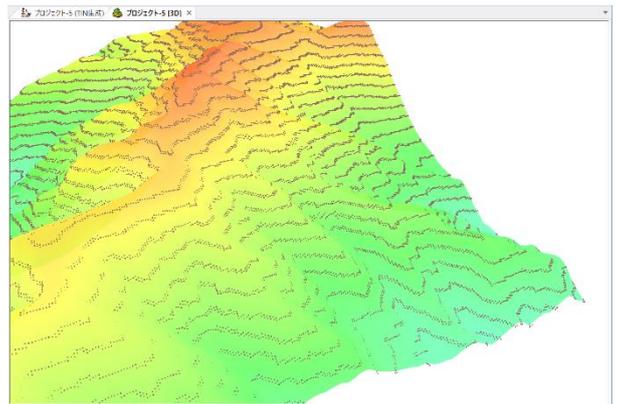
[3D ビュー機能更新—地物オフセット表示・テクスチャー表示に対応しました](#)

■標高メッシュや TIN にテクスチャー画像を貼りつけて表示

TIN ポイントを点群データとして点表示

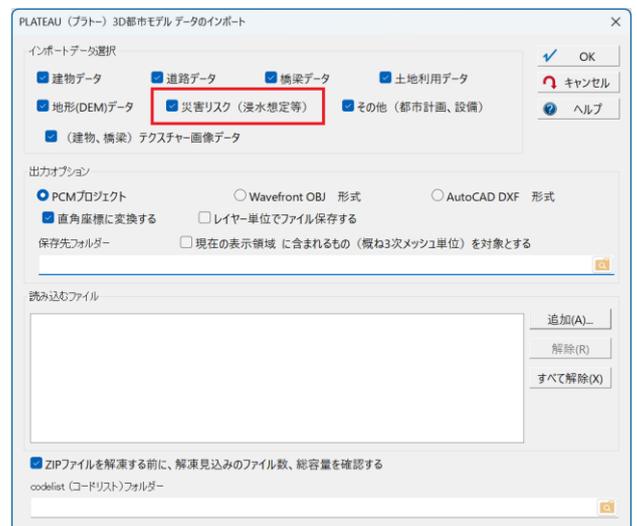
3D ビュー II で、TIN ポイントを点群データとして点表示する機能を追加しました。
TIN の頂点データを点群として扱い、Z 値に対応したカラーで表記できます。

[プロジェクトエキスパート]-[キーリスト]パネルへ
@TINPoint = 1~3 までのいずれか を入力します。
カラーは、[3D]-[表示]-[標高カラー]-「ポイント標高カラー表示設定」ダイアログの、標高カラー1・2・3に対応します。
(この場合、「ポイント標高カラー表示設定」ダイアログのラジオボタンの設定には依存しません)
カラー設定が未定義の場合は黒で表示されます。



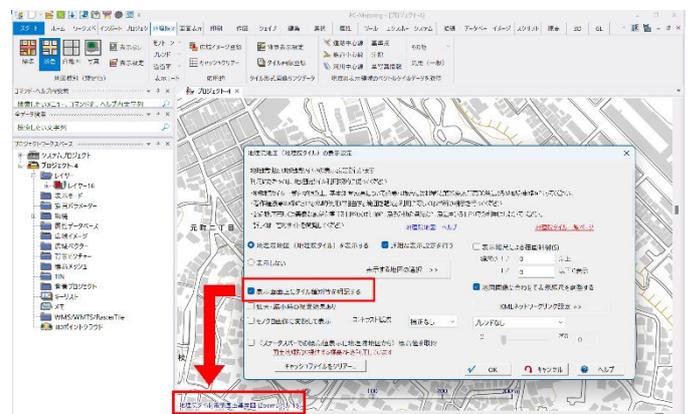
PLATEAU(プラトー)オプション追加

[インポート]-[国土交通省]-[PLATEAU(プラトー)3D 都市モデルデータのインポート]ダイアログボックスの、選択できる項目に「災害リスク(浸水想定等)」を追加しました。
また、プロジェクトファイルの保存に、「レイヤー単位でファイル保存する」オプションを追加しました。
保存した各レイヤーは、外部ファイル(NAV)として保存されます。



[地理院地図]-[表示設定]ダイアログ オプション追加

[ホーム]-[地理院地図]-[表示設定]ダイアログにおいて、「表示画面にタイル種別等を明記する」チェックを追加しました。
このチェックを ON にすると、地理院地図のタイル種別、ズームレベルが画面に表示されます。



TIN から直接的に段彩陰影図を表示

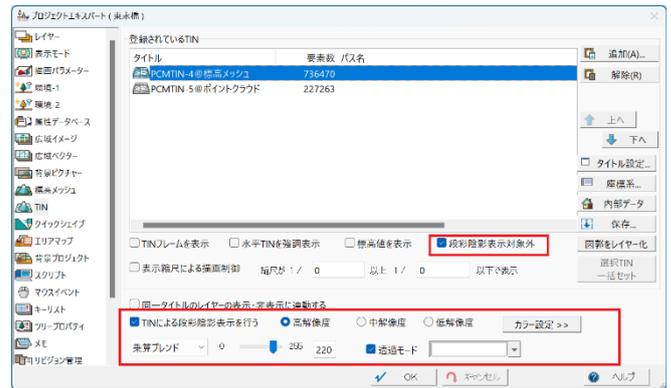
[プロジェクトエキスパート]-[TIN]パネルへ「TIN による段彩陰影表示を行う」チェックを追加しました。

ON にすることで、TIN から直接的に段彩陰影図を表示できます。

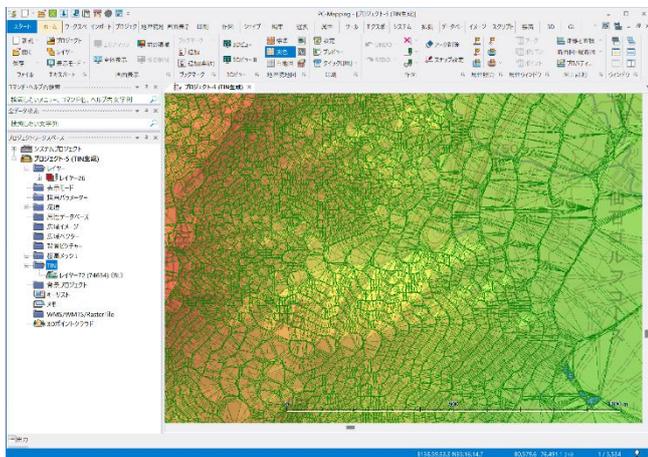
オプションとして、標高に対する色の設定や、解像度の選択、透過モードなどが設定できます。

また、この設定は登録されている全ての TIN データに対して有効となりますが、個別の TIN データを選択した状態(青く表示)で、「段彩陰影表示対象外」のチェックを ON にすることで、除外することができます。

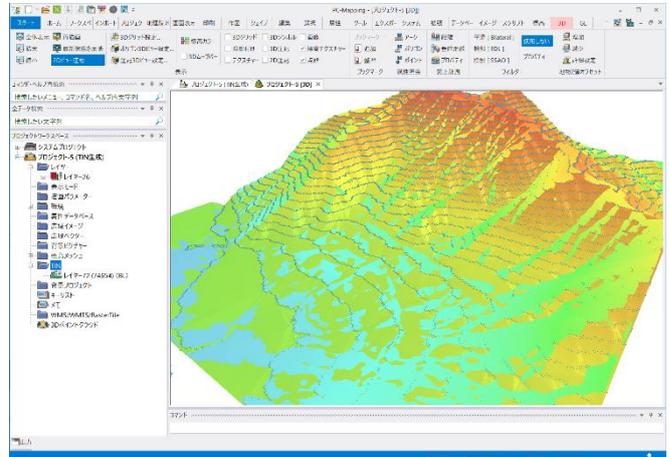
なお、「同一タイトルのレイヤーの表示・非表示に連動する」が ON の場合で、同一タイトルレイヤーが OFF の場合は、表示対象外となります。



また、この設定が有効な場合、3D ビュー II においても段彩陰影での 3D 表示が行われます。



TIN による段彩陰影表示



3D ビュー II での表示

プレゼンテーションビューアパック (PVP) 更新

プレゼンテーションビューアパック (PVP) で、2GB 超のデータが扱えるようになりました。

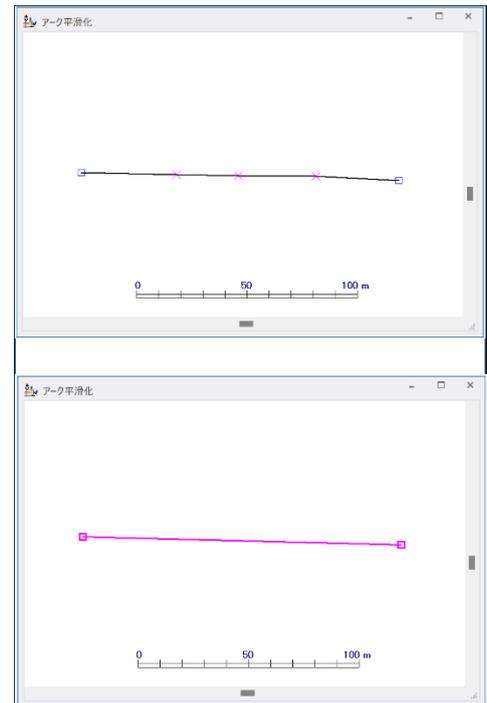
この更新に伴い、PC-MAPPING HT と
プレゼンテーションビューアパック (PVP) の双方を、
Ver8.043 / Build 635312 以降の版に更新する必要があります。



[アーク平滑化]補間点オプション追加

[編集]-[編集]-[編集作図]-[アーク平滑化]に、「指定より大きい挟角となる補間点を削除」を追加しました。

補間点前後のアーク角度を算出して、指定より大きい(180度に近い)補間点を削除します。



描画パラメーターのグレースケール化

描画パラメーターのグレースケール化で、着色の変更が可能です。こちらはメニューにないコマンドです。

■ 描画パラメーターのグレースケール化

Proc△Pal△para1△Grayed

※△は空白

Para1: グレースケール化したい描画パラメーター名
(*の場合はプロジェクト内全てのパラメーター)

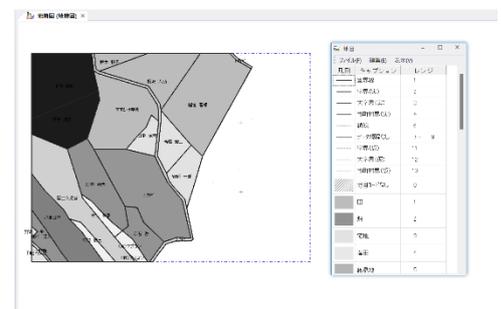
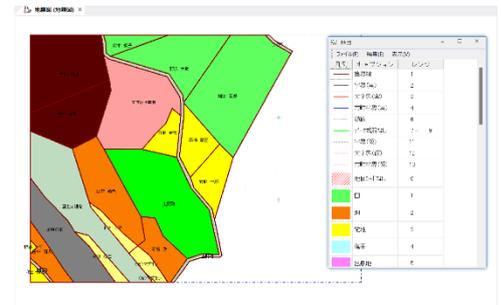
■ 描画パラメーターのグレースケール化と白色化

Proc△Pal△para1△ExGrayed△para2

※△は空白

Para1: グレースケール化したい描画パラメーター名
(*の場合はプロジェクト内全てのパラメーター)

Para2: 白色化のレベル(0~100)大きいほど白色化が強くなる。

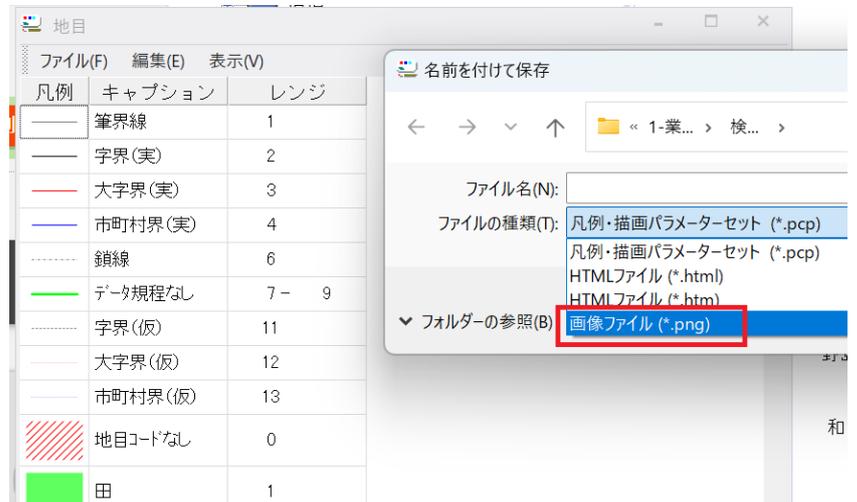


凡例画像として PNG ファイルに保存

[プロジェクトエキスパート]-[描画パラメーター]パネル-[ウィンドウ表示]ボタンで表示される、パレットウィンドウの[ファイル]-[名前を付けて保存]へ、「画像ファイル(*.png)」の保存機能を追加しました。その時点で設定されているパレットを、凡例画像として PNG ファイルに保存します。また、pcm.ini ファイル に以下を記述することで、画像の解像度を指定できます。(デフォルトは 300dpi)

[PaletteWindow]

ImageDPI=300



[システム]-[LAS]-「画像生成」に Intensity 属性の参照を追加

[システム] - [LAS] - 「画像生成」に、Intensity 属性(強度)を参照して、カラーマップを生成し、画像を生成する機能を追加しました。

予めダイアログ上で、参照する LAS ファイルを選択して、「ヒストグラム」ボタンを実行することで、選択された LAS ファイルの Intensity 属性リストが生成され、「カラー設定」時に反映できます。



任意のサイトの PNG 標高タイルを取得するコマンドを追加

サイトの PNG 標高タイルを取得するコマンド、HMeshFromWebAny を追加しました。こちらはメニューにないコマンドです。

HMeshFromWebAny△-Zoom (ズームレベル) △-URL (タイル URL)

※△は空白

任意のサイトの PNG 標高タイルを取得できます。

タイル URL は、<https://xxxxxxxxx/{z}/{x}/{y}.png> のような形式での指定が必要です。

(例) https://cyber.japandata.gsi.go.jp/xyz/dem_png/{z}/{x}/{y}.png

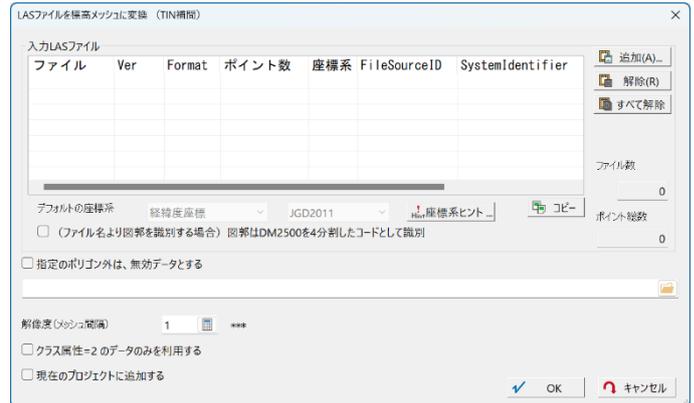
[システム]-[LAS]-[標高メッシュ生成(TIN)]の追加

[システム] - [LAS] - [標高メッシュ生成(TIN)]

を追加しました。

従来の「標高メッシュ生成」と異なり、LAS ファイルから TIN を生成し、その TIN から、指定の解像度の標高メッシュの中心位置の高さを求めて標高メッシュデータを生成します。

従来の方法と比較して処理時間は大幅に増加しますが、点群の密度が低い部分は TIN によって補間されるため、無効領域の発生を抑制できます。



[GPS ログ図形の合わせこみ]機能追加

[システム] - [GPS] - [GPS 軌跡] へ [GPS ログ図形の合わせこみ] 機能を追加しました。

詳細につきましては、以下をご参照ください。

MAPCOM WORLD TOPICS

■ [GPS ログ図形の合わせ込み機能](#)



[選択]オプション追加

[選択] - [個別選択] - [特殊選択] へ、「始点 Z 値が終点 Z 値より大きいアーク」を追加しました。

GeoPackage ファイル(ベクターデータ)取り込み機能追加

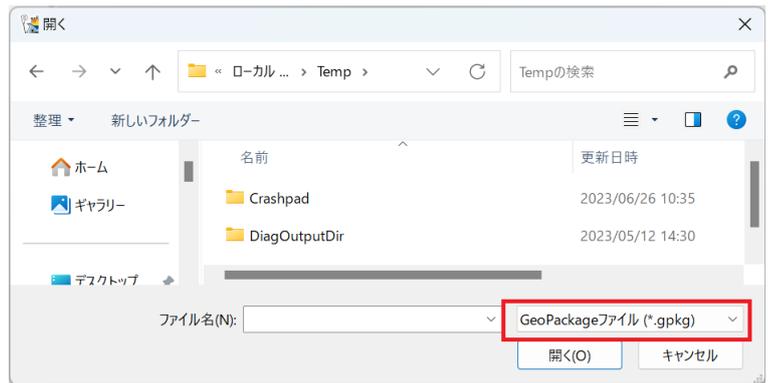
【インポート】 - 【汎用/GIS】へ「GeoPackage」を追加しました。GeoPackage ファイル(ベクターデータ)を取り込むことができます。

この機能を利用するには、GDAL がインストールされている必要があります。インストールの手順につきましては、以下の記事、「事前準備 1. GDAL のインストール」をご参照ください。

MAPCOM WORLD TOKYO

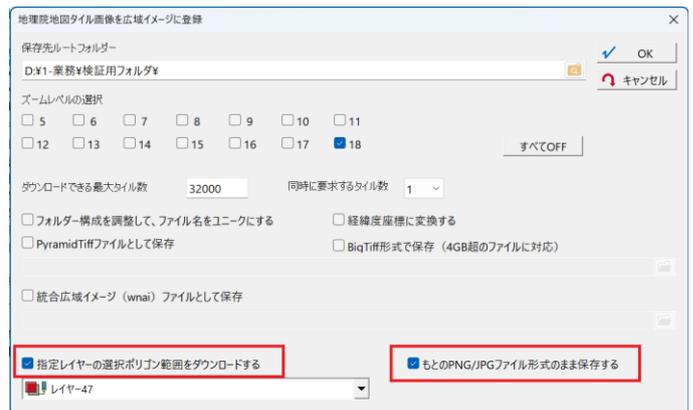
■ベクトルタイルの利点とは？

※GeoPackage
データベース SQLite (Spatialite) をコンテナとした空間データファイル形式
参照は[こちら](#)



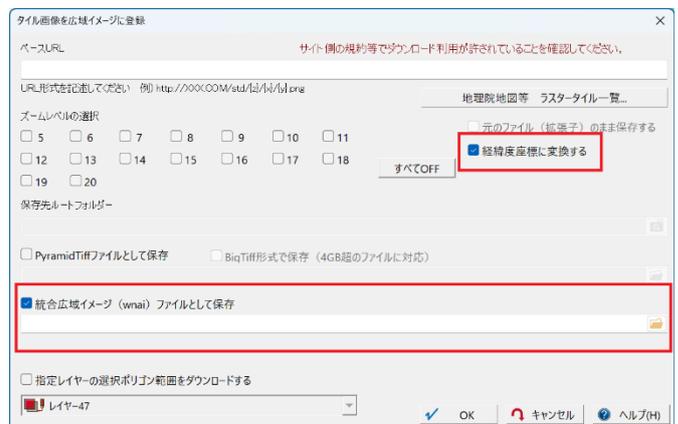
[地理院地図]-[応用的]-[広域イメージ登録]オプション追加

【地理院地図】 - 【応用的】 - 【広域イメージ登録】へ、「指定レイヤーの選択ポリゴン範囲をダウンロードする」
「もとのPNG/JPG ファイル形式のまま保存する」オプションを追加しました。



[地理院地図]画像登録オプション追加

【地理院地図】 - 【応用的】 - 【広域イメージ登録】、
【地理院地図】 - 【タイル形式画像データ】 - 【タイル画像登録】において、統合広域イメージでの出力登録機能を追加しました。
同時に「経緯度座標に変換する」オプションも使用できます。



[フィールド結合]新機能追加

[データベース] - [編集] - [編集] - [フィールド結合] で、キーとなるフィールドを3つまで指定できるようにしました。これに伴った新型のコマンドオプションは以下のようになります。

コマンド : DbFieldMerge

オプション

- CharEx 0 | 1 1:カ カ、ケ ケなどの違いを無視する
- DateMatch 0 | 1 1:第1キーを日付として解釈し、最も近いものにマッチさせる
- OverWrite 0 | 1 1:同じ名前、同じ型のフィールドがある場合、追加せず上書きする
- TField (フィールド名1)(フィールド名2) . . . 転記するフィールド、複数指定可能
- KeySrc1 (フィールド名) 第1キーとなるフィールド
- KeySrc2 (フィールド名) 第2キーとなるフィールド
- KeySrc3 (フィールド名) 第3キーとなるフィールド
- RefDb (データベース名) 参照される DB
- KeyRef1 (フィールド名) 参照される DB 第1キーとなるフィールド
- KeyRef2 (フィールド名) 参照される DB 第2キーとなるフィールド
- KeyRef3 (フィールド名) 参照される DB 第3キーとなるフィールド



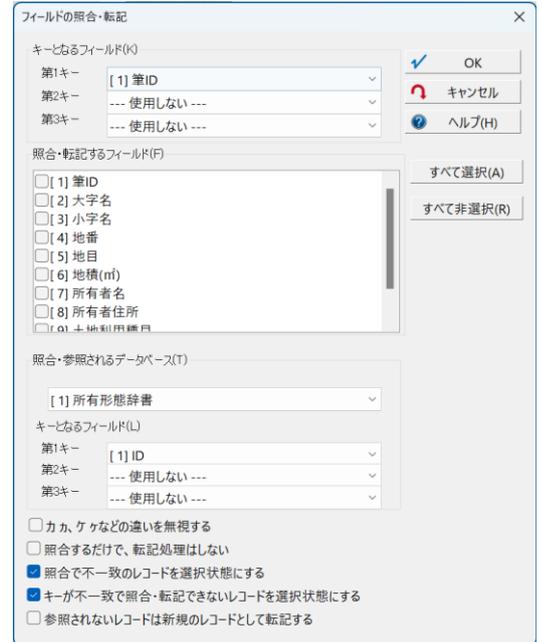
[フィールドの照合・転記]新機能追加

[データベース] - [編集] - [編集] - [フィールドの照合・転記] で、キーとなるフィールドを3つまで指定できるようにしました。これに伴った新型のコマンドオプションは以下のようになります。

コマンド : DbFieldMatch

オプション

- CharEx 0 | 1 1:カ カ、ケ ケなどの違いを無視する
- NoMerge 0 | 1 1:照合するだけで、転記処理はしない
- SelUnmatch 0 | 1 1:照合で不一致のレコードを選択状態にする
- SelUnmatchKey 0 | 1 1:キーが不一致で照合・転記できないレコードを選択状態にする
- CopyUnrefRec 0 | 1 1:参照されないレコードは新規のレコードとして転記する
- TField (フィールド名1) (フィールド名2) . . . 転記するフィールド、複数指定可能
- KeySrc1 (フィールド名) 第1キーとなるフィールド
- KeySrc2 (フィールド名) 第2キーとなるフィールド
- KeySrc3 (フィールド名) 第3キーとなるフィールド
- RefDb (データベース名) 照合・参照される DB
- KeyRef1 (フィールド名) 照合・参照される DB 第1キーとなるフィールド
- KeyRef2 (フィールド名) 照合・参照される DB 第2キーとなるフィールド
- KeyRef3 (フィールド名) 照合・参照される DB 第3キーとなるフィールド



ご注意

1. 本文の内容に関して将来予告なしに変更することがあります。
2. 本文の機能説明とヘルプの機能説明に相違点が発生した場合はヘルプの記述を優先してください。
3. 本文の内容につきましては、万全を期して作成しましたが、技術的な内容について万一不審な点や誤り、記載もれなどお気づきのことがございましたら（株） マプコンまでご連絡ください。

本書に記載されている会社名・商品名等は、各社の商標または登録商標です。

株式会社 マプコン

URL: <https://www.mapcom.tokyo/>

MAIL: info@mapcom.co.jp

